2024年12月期 決算説明会資料

Supplemental Information Financial Results For FY 2024 4Q

2025年2月18日

四国化成ホールディングス株式会社
（東証プライム4099）

1. 連 結 業 績 の 概 要
Consolidated Financial Results

2. 2025年12月期の通期見通し
Financial Forecast for the Fiscal Year Ending 2025

3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて
Action to Implement Management that is Conscious of Cost of Capital and Stock Price

4. Challenge 1000 進捗
Progress of Challenge 1000

5. 参考資料
Appendix

1. 連結業績の概要

Consolidated Financial Results

業績ハイライト Financial Highlights

好調な海外販売と円安により、いずれも過去最高を更新

（百万円）
Million yen

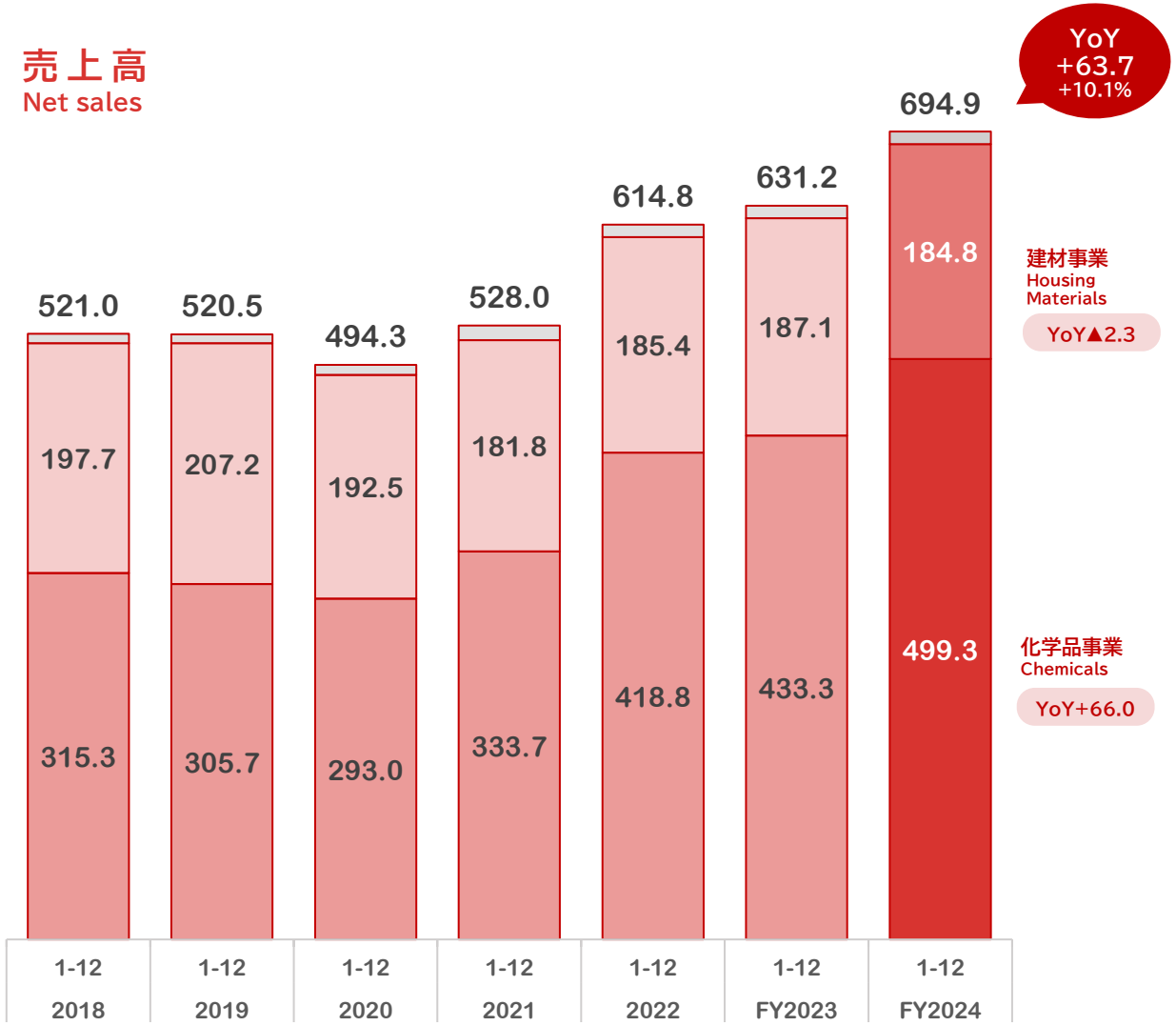
	FY2023 累計	FY2024 累計	増減 Change ／ 増減率 Rate	備考 Remarks
売 上 高 Net Sales	63,117	69,493	+6,375 +10.1%	・化学品事業は、海外販売の増加と円安により増収 ・建材事業は、戸建市場の低迷により減収
営 業 利 益 Operating profit	8,019	9,741	+1,721 +21.5%	・建材事業は減益となったものの、化学品事業の販売増や円安により全社で増益
経 常 利 益 Ordinary profit	9,280	10,779	+1,499 +16.2%	・為替差損益　389（YoY▲160） ・受取利息　306（YoY+89）
親会社株主に帰属する 当期純利益 Profit attributable to owners of parent	7,853	8,813	+959 +12.2%	・投資有価証券売却損益 1,807（YoY▲263） ・固定資産除却損 ▲30（YoY▲27）
為替レート （PL換算用） Exchange rate	1USD 140円 1EUR 148円 1RMB 19.8円	1USD 151円 1EUR 164円 1RMB 20.8円	売上高+20億円 営業利益+12億円	・前年比増減に含まれるPL円換算時の影響額（化・建計） 外貨建取引における換算レート変動の影響のみを抽出しております。円貨建取引においても実質的に為替レートの変動に影響を受ける取引は多くありますが、含まれておりません。

売上高と営業利益の推移(通期累計)

Trends in Net sales and Operating profit (YTD)

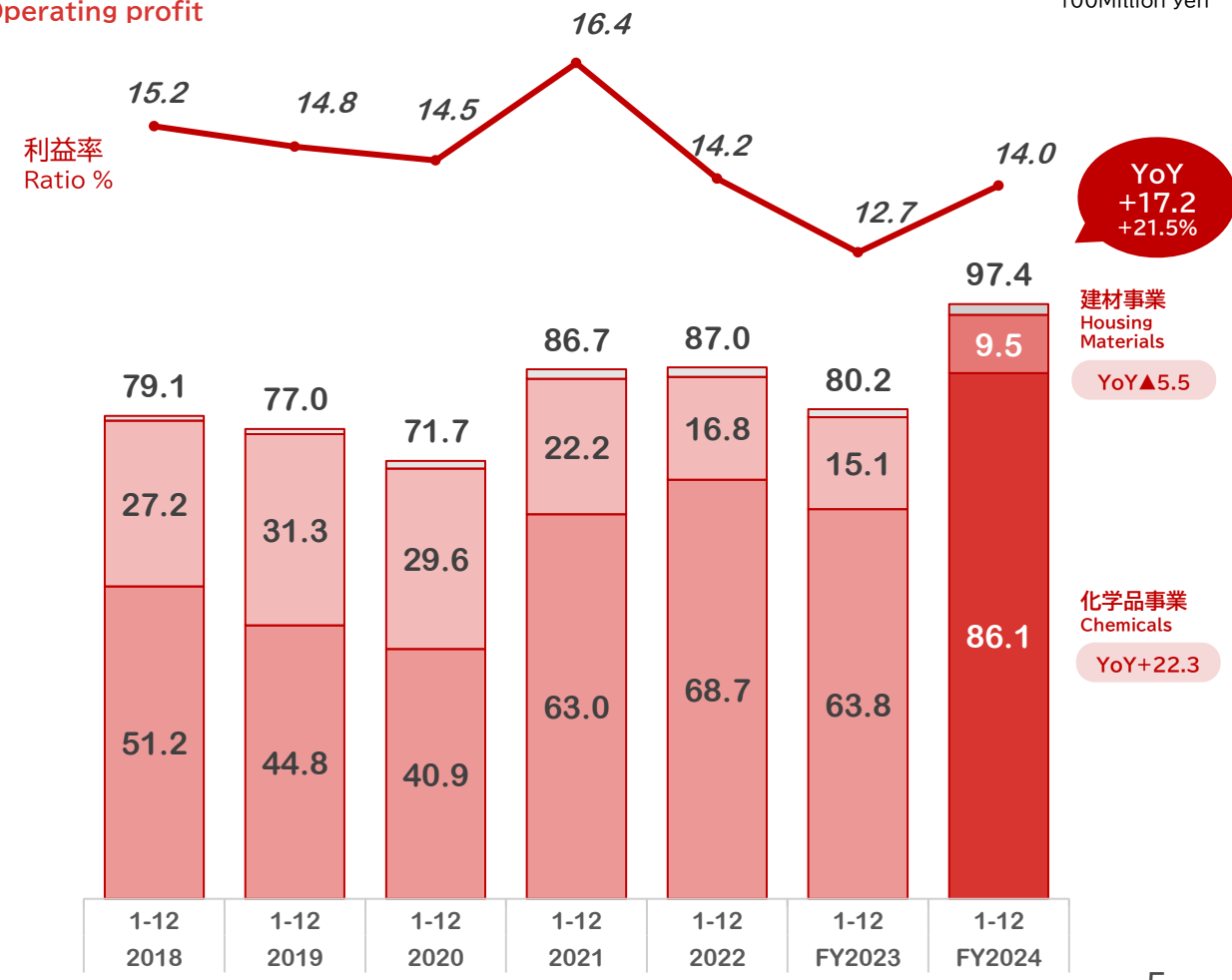
売上高は化学品が増収(+66.0)、建材が減収(▲2.3)だが、全社で増収(計+63.7)
営業利益は化学品が増益(+22.3)、建材が減益(▲5.5)だが、全社で増益(計+17.2)

売上高
Net sales



営業利益
Operating profit

(億円)
100Million yen

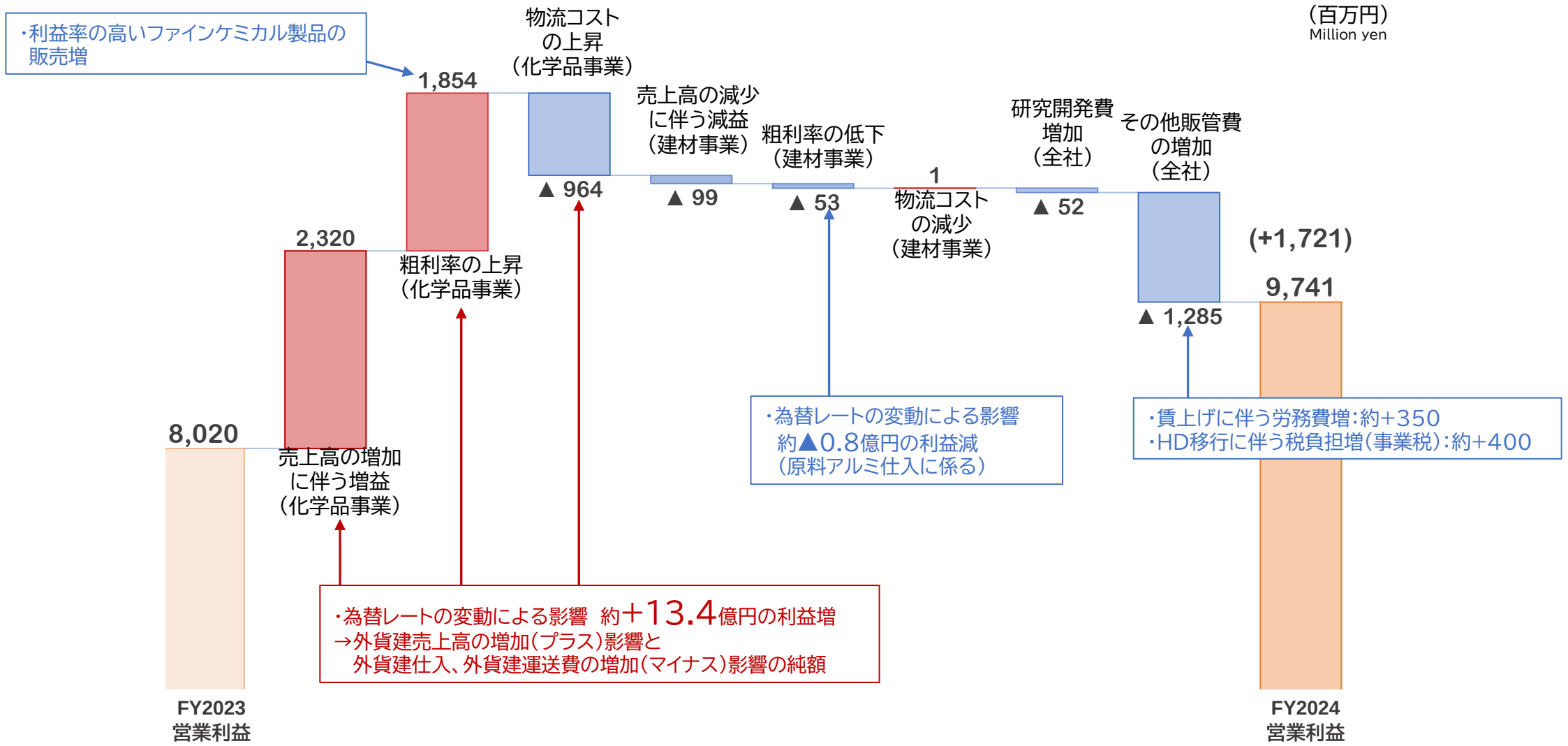


※2022年度以前の実績は当年度と同一期間(1月～12月)で表示しております。

営業利益の変動要因分析(通期累計)

YoY Changes in Operating profit

運送費や販管費が増加したものの、化学品の販売増、
中でも利益率の高いファインケミカル製品の販売が増加したことに加え、円安により増益



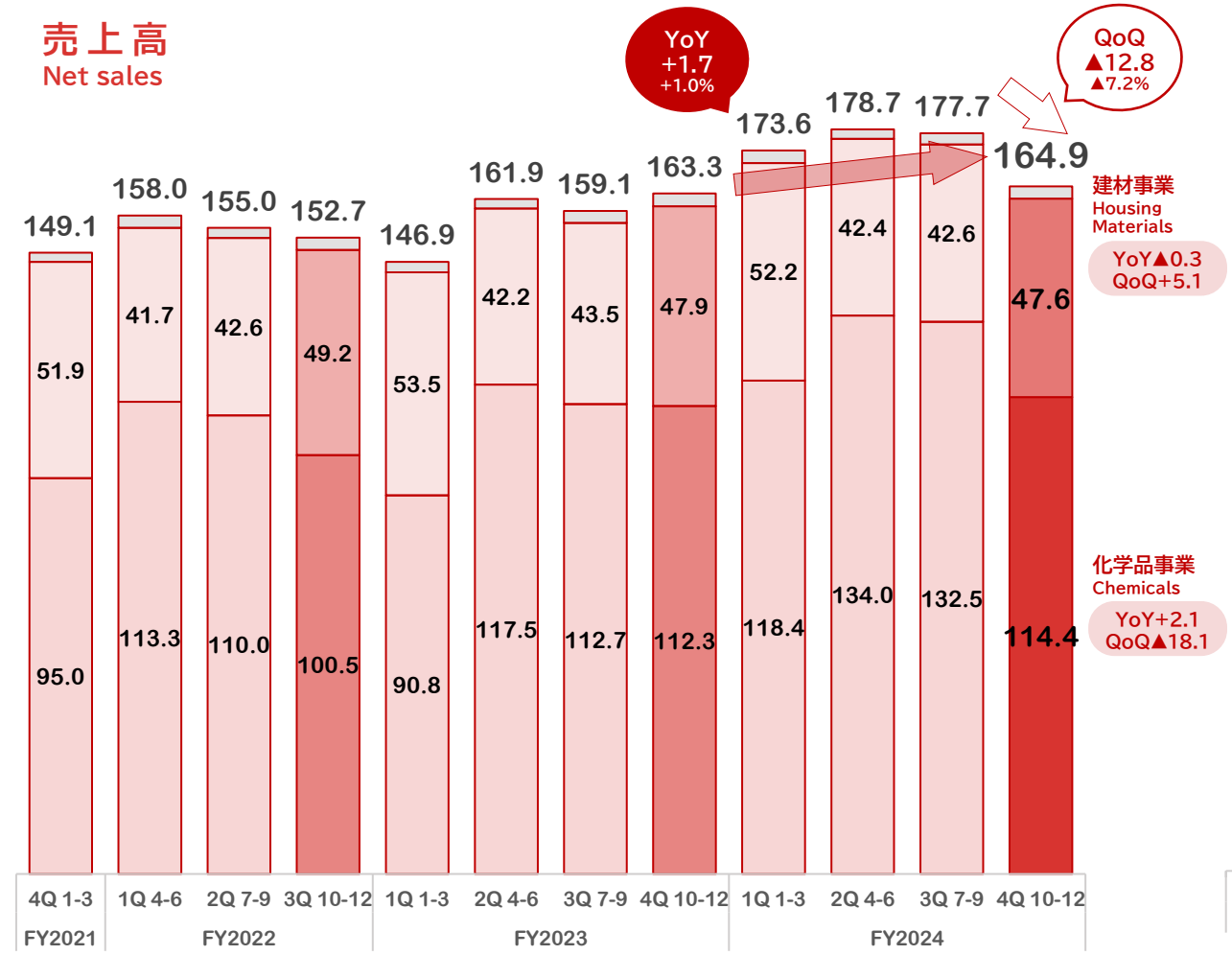
売上高と営業利益の推移（四半期対比）

Trends in Net sales and Operating profit (QTD)

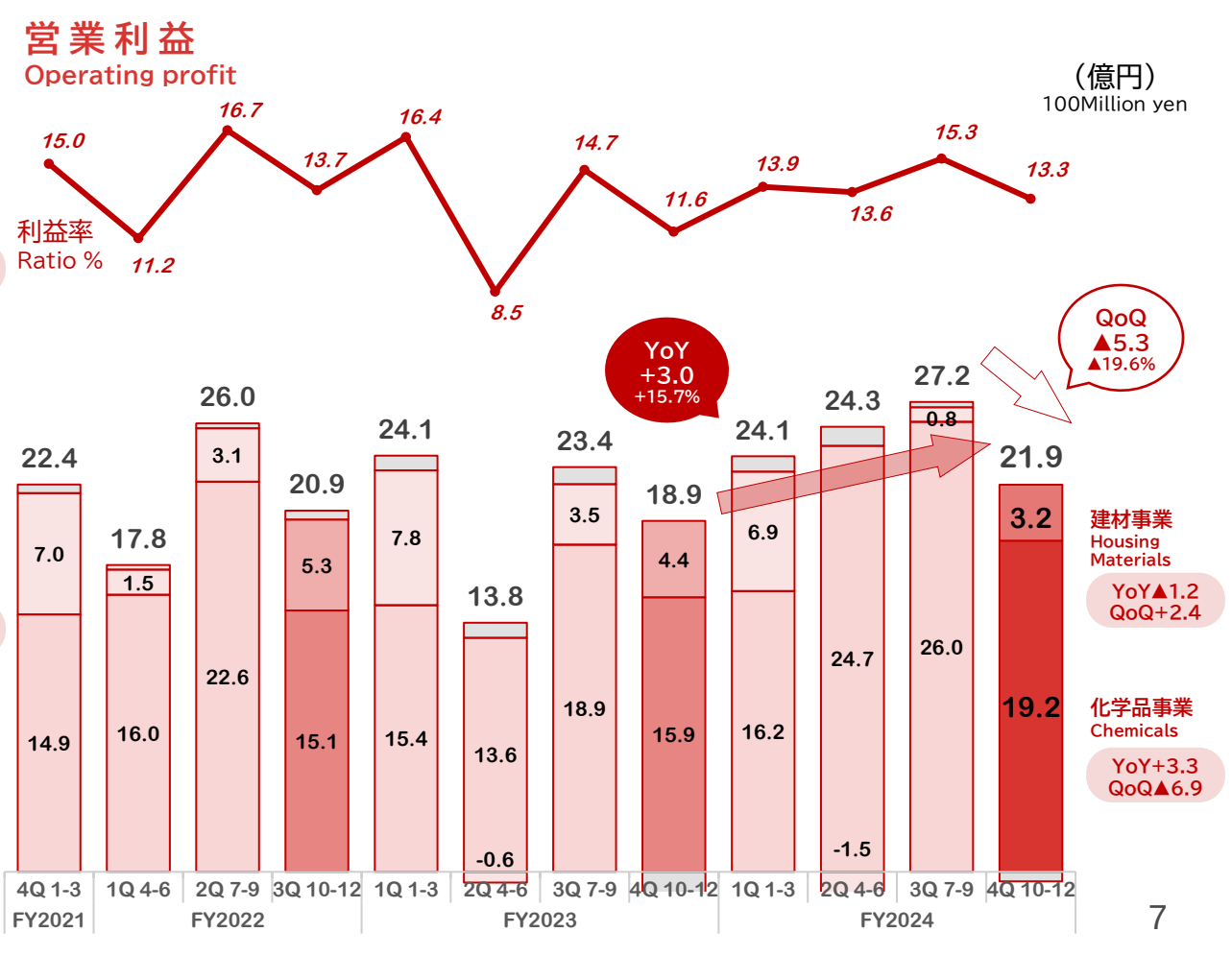
・全社でYoY+1.7億円。化学品は無機化成品、ファインケミカルの販売が増加し、増収（+2.1）。建材は戸建住宅市場の低迷が続き、わずかに減収（▲0.3）。
・QoQでは▲12.8億円。化学品は無機化成品が増収となったが、有機化成品の季節要因やファインケミカルが減収となり、全体で減収（▲18.1）。建材は住宅エクステリア、景観エクステリアともに増収。（+5.1）。

・全社でYoY+3億円の増益。化学品は販売増により増益（+3.3）。建材はアルミ地金等の原料価格の高止まりにより減益（▲1.2）。
・QoQでは▲5.3億円の減益。化学品は有機化成品の季節要因による販売減で減益（▲6.9）。
建材は利益率の高い景観エクステリアの販売比率上昇により増益（+2.4）。

売上高
Net sales



営業利益
Operating profit



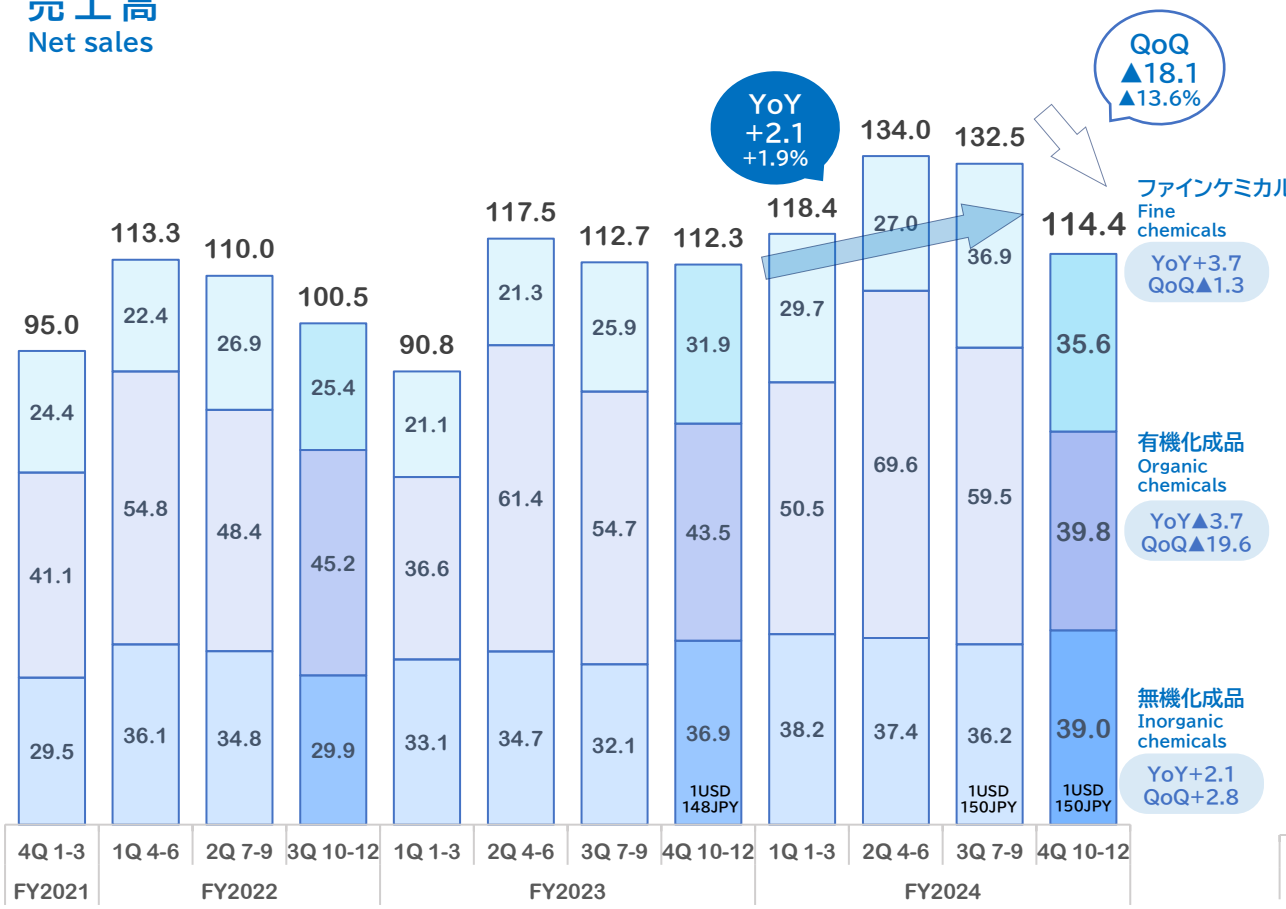
セグメント別の概況　化学品事業（四半期対比）

Operating results by segment : Chemicals (QTD)

・無機化成品は不溶性硫黄の北米などへの拡販によりYoYは+2.1億円、また、3Qに発生した納入先の在庫調整が解消しQoQは+2.8億円となった。
・有機化成品（ネオクロール）は顧客設備の定期修繕や在庫調整などによりYoYで▲3.7億円、QoQは季節要因などにより▲19.6億円となった。
・ファインケミカルは市況回復によりYoYで+3.7億円、一方、3Qへの納入前倒しの反動によりQoQでは▲1.3億円。新規分野では、GliCAPはサーバ基板用途を中心に採用が進み、好調に推移。半導体プロセス材料は一部で本採用が決定し需要が拡大。
・為替の影響は、YoYで+0.8億円(148→150)、QoQではほぼ影響なし(150→150)。

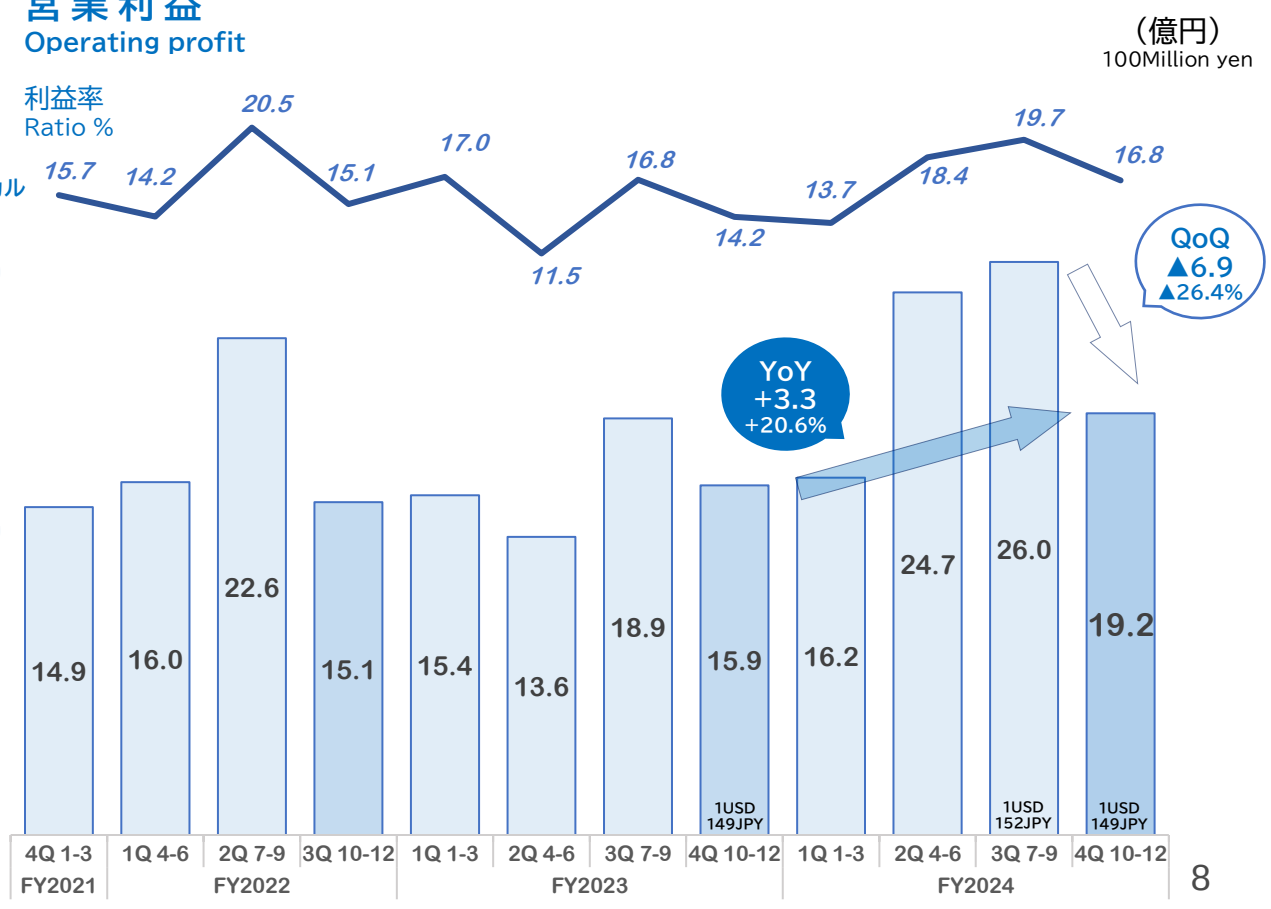
・YoYで+3.3億円増益。為替の円安で+0.6億円程度の利益増影響。
高収益のファインケミカルの販売が増加したことが主要因。
・QoQでは▲6.9億円。有機化成品の季節要因による販売減が影響。
また、無機化成品での運送費の上昇に加え、高収益のファインケミカルの減収により利益率は16.8%へ低下。

売上高
Net sales



営業利益
Operating profit

（億円）
100Million yen



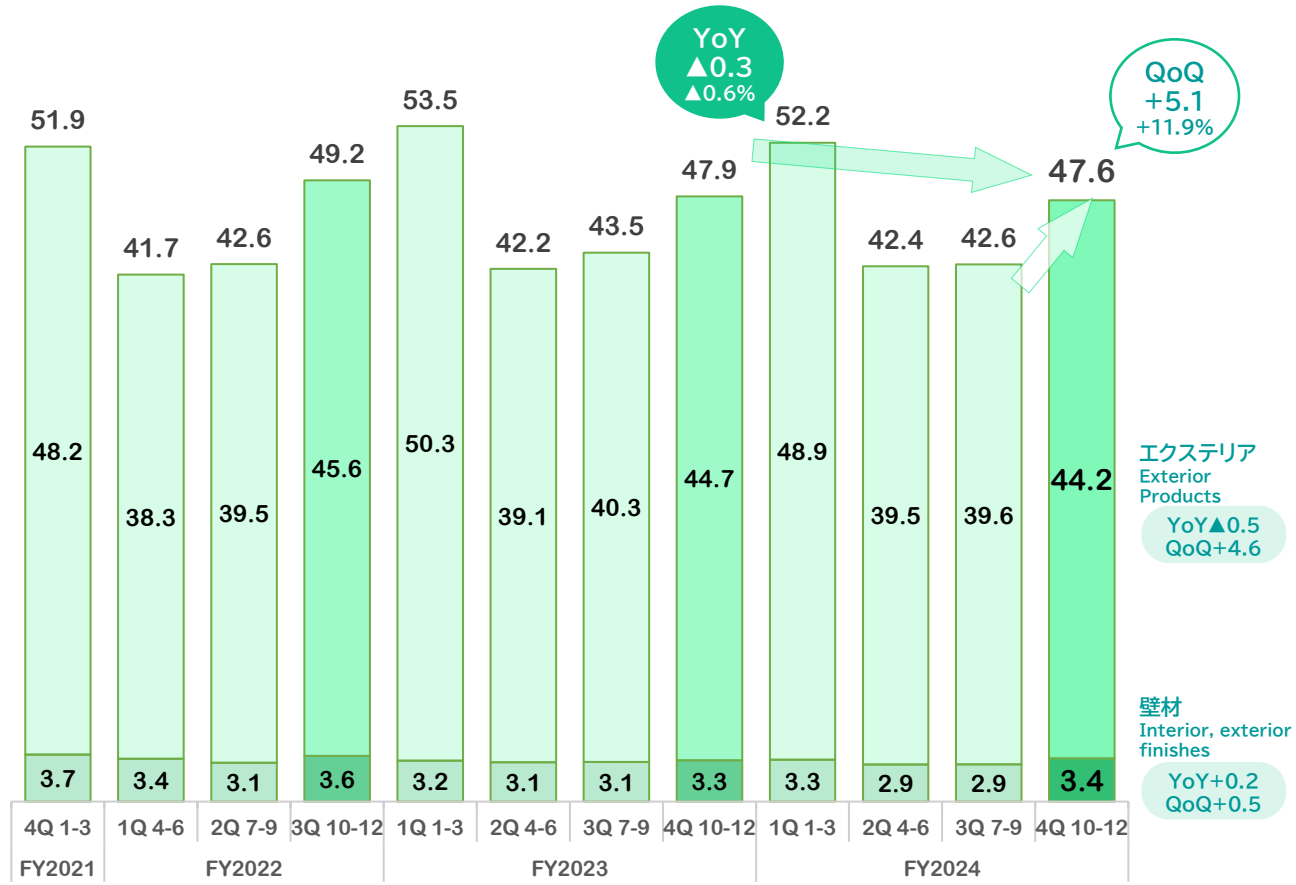
セグメント別の概況　建材事業（四半期対比）

Operating results by segment : Housing Materials (QTD)

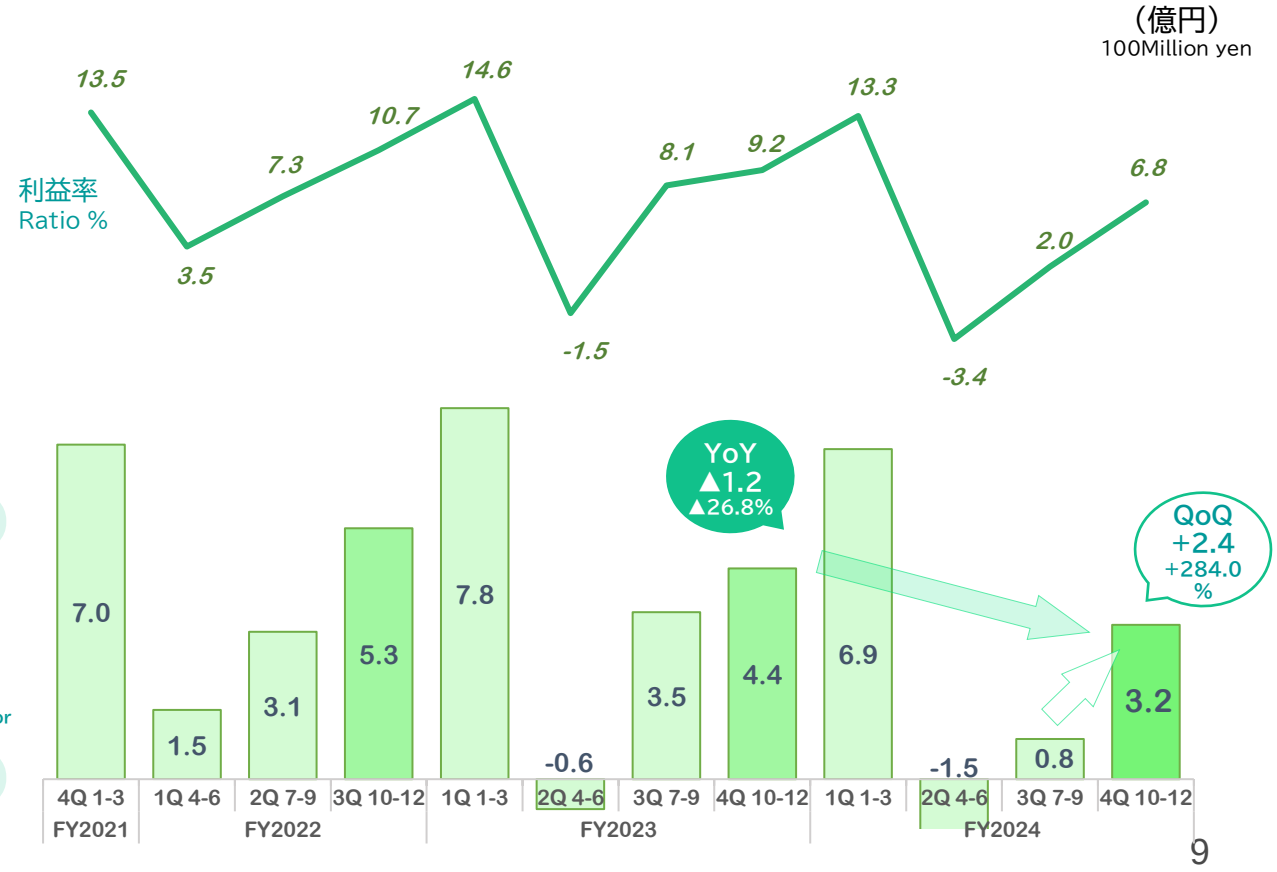
・建材事業全体で、YoY▲0.3億円。
・YoYは壁材が+0.2億円、エクステリアが▲0.5億円となった。景観エクステリアの販売は好調であったが、住宅着工(戸建)の不振の影響を受け、住宅エクステリアが低調に推移し、全体で減収となった。
・QoQは壁材が+0.5億円、エクステリアは+4.6億円となり、全体で+5.1億円となった。

・建材事業全体で、YoY▲1.2億円のマイナス。
・壁材は販売がわずかに回復したが、利益貢献は高くない。
・エクステリアは、収益性の高い景観エクステリアの販売比率が増加しているが、アルミ地金価格の高止まりにより収益性が悪化し、減益。
・QoQでは、販売増に伴い+2.4億円となり、利益率も回復傾向にある。

売上高
Net sales



営業利益
Operating profit



2. 2025年12月期の通期見通し

Financial Forecast for the Fiscal Year Ending 2025

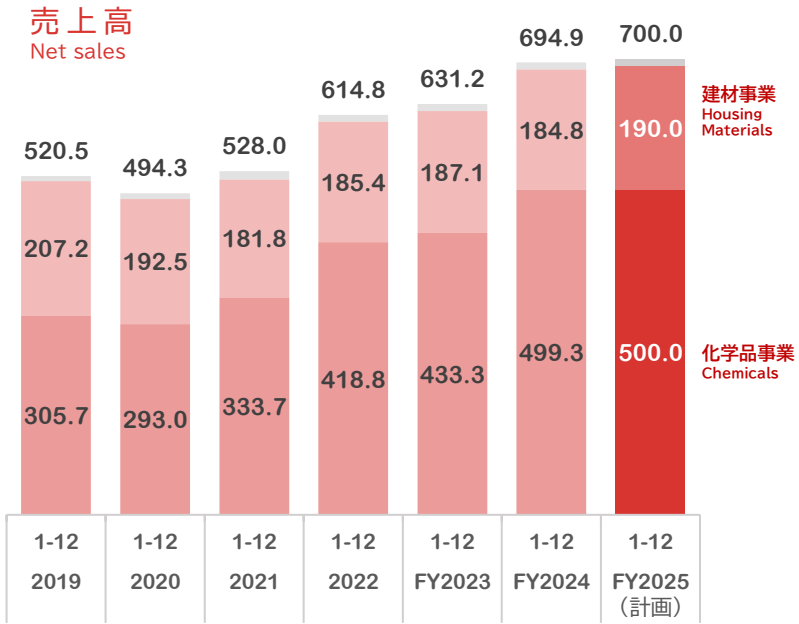
連結業績予想 Forecast of Consolidated Financial Results

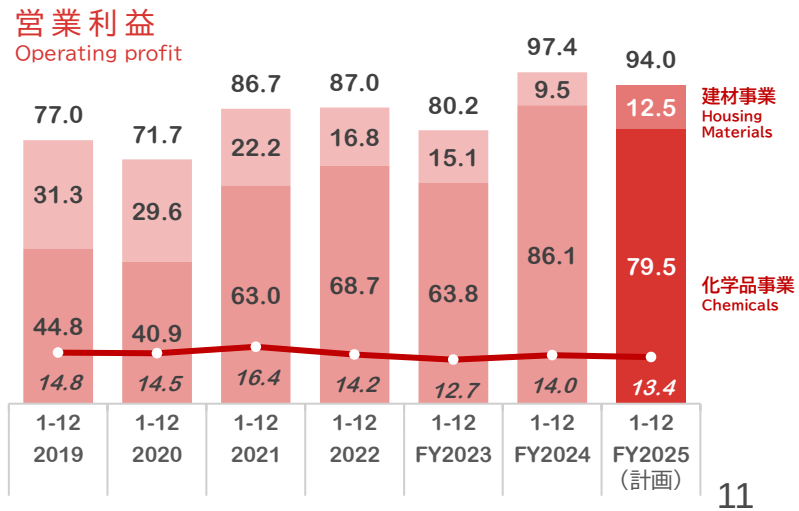
化学品、建材ともに増収となるものの、
固定費（減価償却費）の増加により化学品が減益となり、全体でも減益を見込む

（百万円）
Million yen

	2024年12月期	2025年12月期	増減 Change ／ 増減率 Rate	備考 Remark
売上高 Net sales	69,493 （化学品）49,933 （建材）18,477	70,000 （化学品）50,000 （建材）19,000	+507 +0.7%	・化学品事業は、ファインケミカルの拡販を見込み、増収。 ・建材事業は、価格改定と景観エクステリアの拡販を見込み、増収。
営業利益 Operating profit	9,741 （化学品）8,611 （建材）954	9,400 （化学品）7,950 （建材）1,250	▲341 ▲3.5%	・化学品事業は、販売単価の下落や減価償却費増で、減益。 ・建材事業は、価格改定で収益性が改善し、増益。
経常利益 Ordinary profit	10,779	9,800	▲979 ▲9.1%	・前期為替差益の発生によりマイナス幅拡大 （前期為替差益+389）
親会社株主に帰属する当期純利益 Profit attributable to owners of parent	8,813	6,500	▲2,313 ▲26.2%	・前期投資有価証券売却益の発生によりマイナス幅拡大 （前期売却益+1，807）
為替レート（PL換算用） Exchange rate	1USD 151円 1EUR 164円 1RMB 20.8円	1USD 150円 1EUR 160円 1RMB 21.0円		・為替レート1円/USDの変動に対し、売上高で約1.7億円、営業利益で約1.0億円の影響。

（億円）
100Million yen





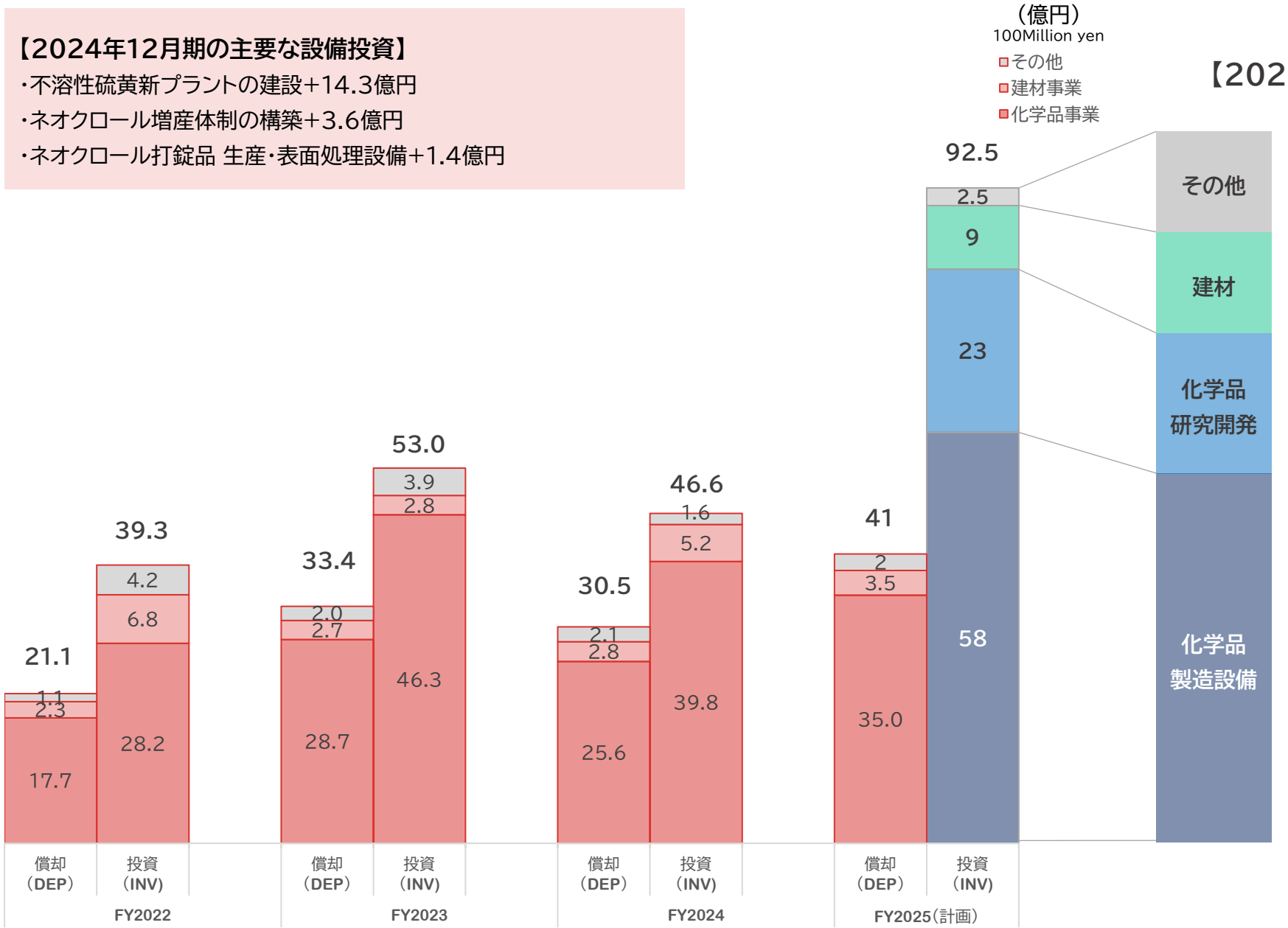
※前年比較及びグラフの表示は、2022年度以前の実績を当年度と同一期間（1月～12月）に調整しております。

設備投資及び減価償却費について

Capital investment and Depreciation

【2024年12月期の主要な設備投資】

・不溶性硫黄新プラントの建設+14.3億円
・ネオクロール増産体制の構築+3.6億円
・ネオクロール打錠品 生産・表面処理設備+1.4億円



【2025年12月期の主要な設備投資】

その他
・システム関連更新等 +1.2億円
・その他更新等 +1.3億円

建材
・WEB見積ツール 整備費用 +1.2億円
・生産工場 設備更新等 +7.8億円

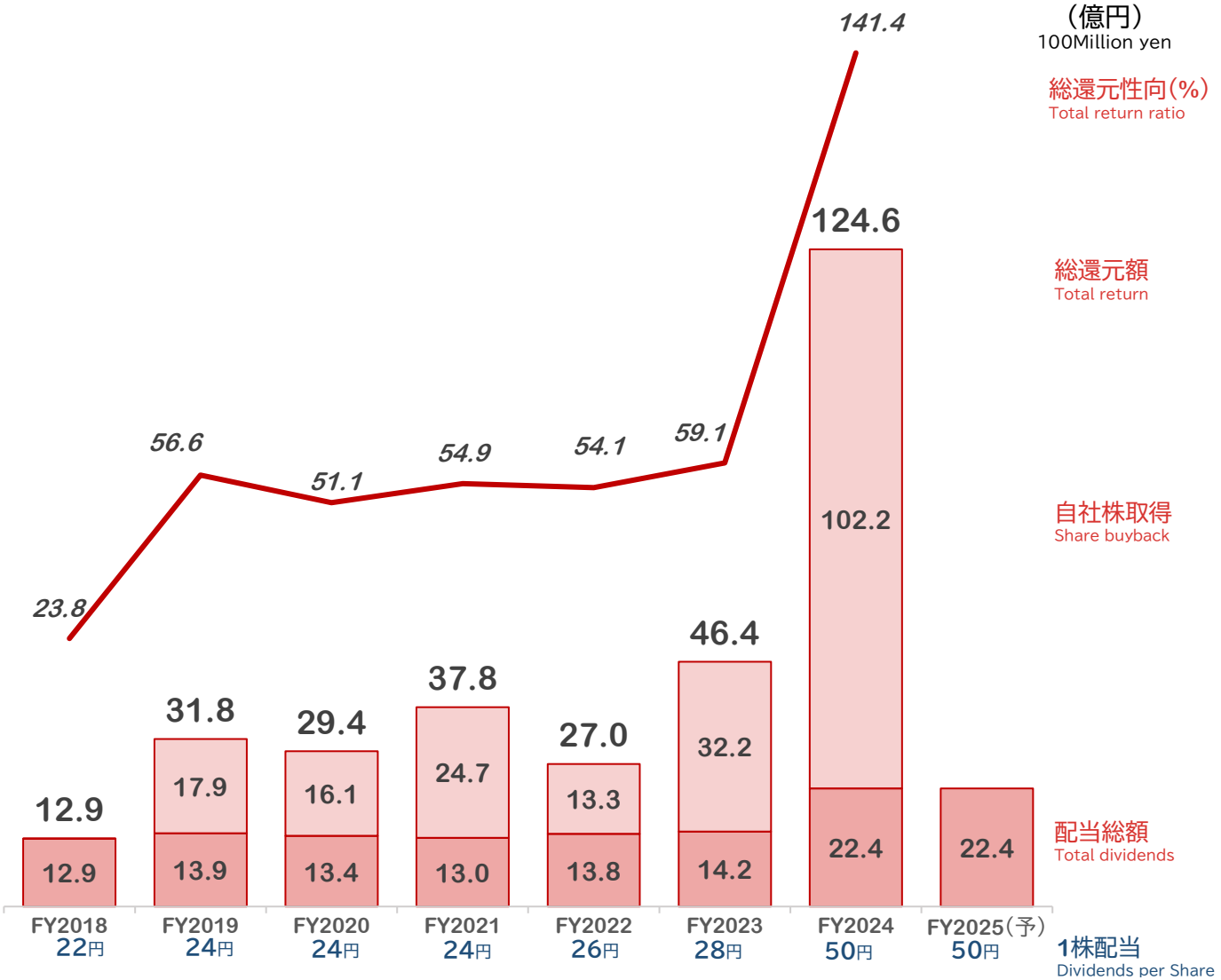
化学品 研究開発
・R&Dセンター新棟関連費用 +17.6億円
・化学品 研究開発設備等 +5.4億円

化学品 製造設備
・コージェネレーションシステム 13.0億円
・不溶性硫黄新プラント 7.8億円
・ネオクロール 増産体制・打錠機等 7.2億円
・丸亀工場 設備更新等 10.1億円
・北島工場 設備更新等 12.0億円
・その他 設備更新等 7.9億円

配当及び株主還元について

Dividend and Share buy-back Trends

配当予想および株主還元方針に変更なし



【株主還元方針】

・2030年に至る長期ビジョン「Challenge 1000」の期間中において「連結業績を基準として、配当性向30%・総還元性向50%」を目指す。

・配当額の決定指標として、連結株主資本※配当率（DOE）3%を設定し、配当性向とDOEの双方の指標を勘案しながら累進的配当を実現する。

※連結株主資本（連結純資産ーその他の包括利益累計額）

【2024年12月期の株主還元政策】

・配当は1株当たり50円（中間25円・期末25円）としました。

・2024年2月にToSTNeT-3で計102.2億円（5,891,100株）の自社株買いを行いました。金融機関との持合解消によるものです。

・配当額は22.4億円、総還元額は124.6億円、総還元性向は141.4%となりました。

【2025年12月期の株主還元政策（予想）】

・1株当たり50円（中間25円・期末25円）を維持する計画です。

・また、株主還元方針を前提に機動的に自己株取得を行い、余剰資本や政策保有株式の圧縮を進め、株式価値の向上に努めてまいります。

3.資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

Action to Implement Management that is Conscious of Cost of Capital and Stock Price

現状認識と当面の対応方針

Analysis of current situation and Policies for the present

事業ROICは化学品が上昇した一方、建材は低下した。
2月に実施した自社株買いによる純資産の圧縮で、
全社ROIC/ROEは上昇

連結貸借対照表(2024/12/31現在概算値)

【金融資産】

	FY2023末	FY2024末
	698億円	**729億円**
		(期初比+**30.7**億円)
(内訳)		
現預金	299億円	**337億円**
有価証券		
1年内償還投資適格債券	175億円	**146億円**
投資有価証券		
投資適格債券	70億円	**122億円**
政策保有株式等	153億円	**124億円**

【余剰資本】

(金融収益)	FY2023末	FY2024末
	6.9億円	**7.3億円**

(リスクバッファ保持方針)
年間売上高の1/3を保持する

(配分可能資金)
余剰資金からリスクバッファを除いた額は削減検討資本として扱い、喫緊の資金需要が無い場合株主還元を検討。政策保有株式については優先的に削減を検討するが、持合先との事業シナジーの創出にも努める。

【事業用諸資産】

営業債権
棚卸資産
有形/無形固定資産

	FY2023末	FY2024末
【化学品】	431億円	**439億円** (期初比+**8**億円)
【建材】	144億円	**149億円** (期初比+**4**億円)
【全社】	611億円	**629億円** (期初比+**17**億円)

【事業投下資本】

(対比すべき利益指標)
事業別税引き後営業利益 → 事業別ROIC

	FY2023末	FY2024末
【化学品】	301億円	**314億円** (期初比+**13**億円)
事業別ROIC	15.2%	**19.6%**
【建材】	81億円	**91億円** (期初比+**10**億円)
事業別ROIC	12.0%	**7.7%**
【全社】	392億円	**417億円** (期初比+**25**億円)

【事業用諸負債】

営業債務
労働負債・引当金

【全社グループ投下資本】

(対比すべき利益指標)
税引後(営業利益+金融収益)
→全社ROIC

(ROIC目標)
ROICのハードルレートはWACCとするが、WACCはレバレッジの活用によって株主資本コストから引き下げ6%以下を目指す。

(現状)
化学品ROICと全社ROICに乖離があるが、利回りの小さい余剰資本によって投下資本全体の利回りが低下している。余剰資本を適切な額まで圧縮することにより全社ROICの利回り向上を目指す。

	FY2023末	FY2024末
	1,090億円	**1,147億円** (期初比+**56**億円)
全社ROIC	5.8%	**6.6%**

【将来獲得収益(FCF)】

(株主還元)
当期純利益の50%を目標として、機動的に実施

(内部留保)
リスク資金として成長投資と人的資本投資を最優先

【簿価純資産】

(対比すべき利益指標)
当期純利益 →ROE

(想定株主資本コスト)
6~8%

(ROE目標)
最低限株主資本コストを上回るためにも短期的には8%をハードルレートとし、資本の圧縮により安定的に10%超を目指す。

	FY2023末	FY2024末
	861億円	**833億円** (期初比▲**27**億円)
ROE	9.4%	**10.4%**

【有利子負債】

(レバレッジ基本方針)
・低コスト資金として、格付を維持できる範囲で積極的に活用
・D/Eレシオ30%程度を目安とする。

	FY2023末	FY2024末
	222億円	**305億円** (期初比+**83**億円)

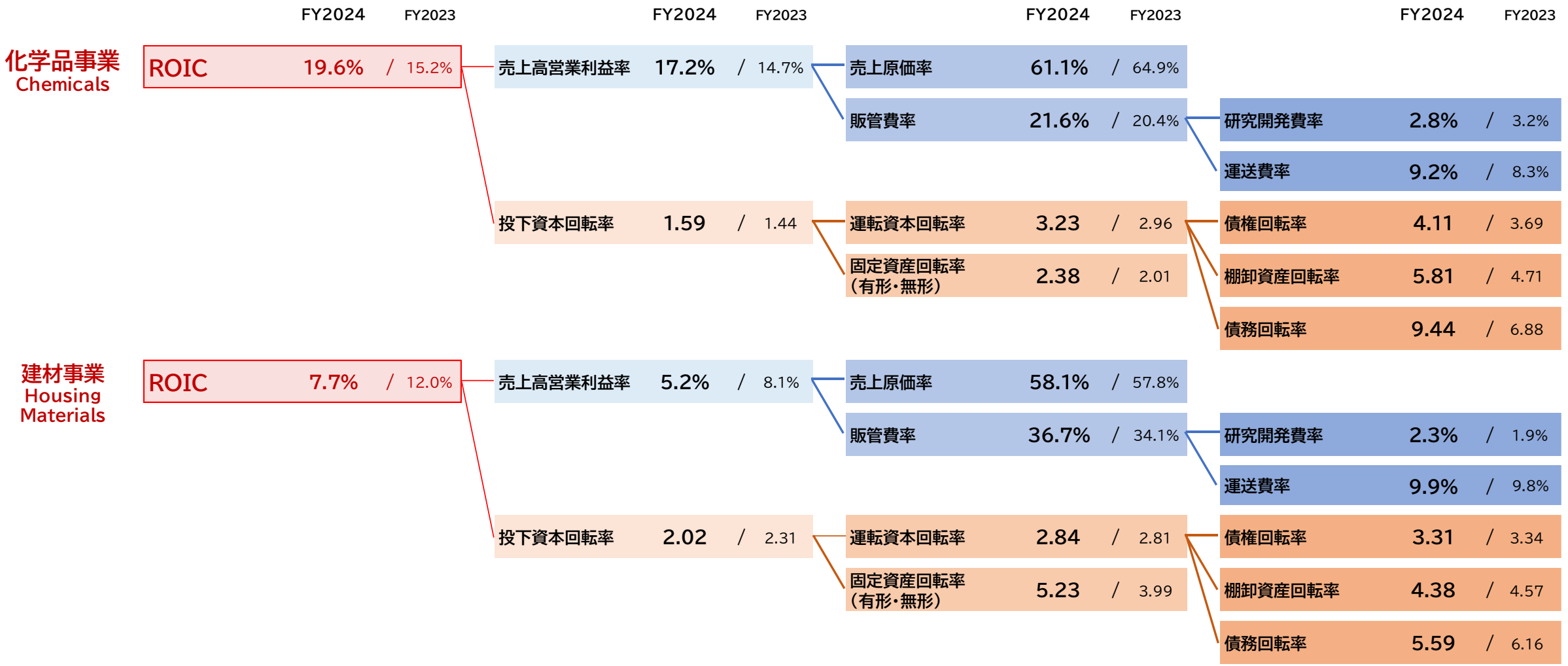
【将来純資産】

攻めの成長戦略と資本効率性を両立させるバランスシートマネジメントにより、常時株主資本コストを上回るROE水準を維持する。

ROICツリー分析

Analysis of ROIC Tree

ニッチな事業領域や研究開発力に起因する高付加価値＝低原価率・高ROSと、
生産設備の投資負担が小さいことから高い資本回転率を維持している。



4. Challenge 1000 進捗

Progress of Challenge 1000

Challenge 1000　財務目標と進捗状況

Progress of ‘Challenge 1000’

2030年にありたい姿

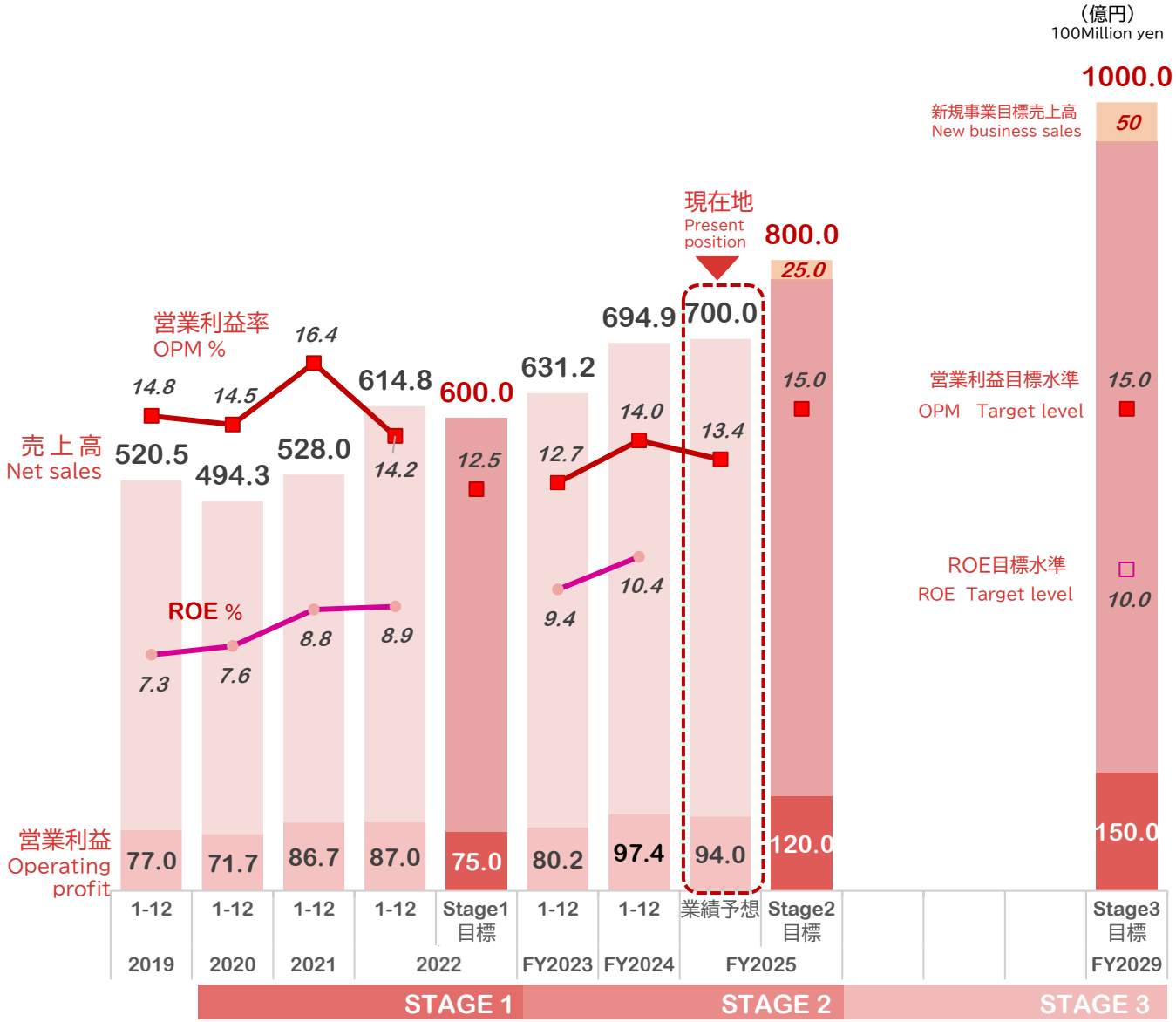
独創力で、“一歩先行く提案”型企業へ

独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界をリードする

財務目標	売上高1,000億円　営業利益150億円　ROE10%
戦略の柱	事業変革方針　全社変革方針　積極投資　SDGsの達成
四方よし	顧客　　従業員　　株主　　社会

（百万円）
Million yen

	「STAGE 2」最終目標（FY2023～FY2025）	FY2025 業績予想	「STAGE 2」最終目標に対する達成率
売 上 高 Net sales	80,000	70,000	78.9%
営 業 利 益 Operating profit	12,000	9,400	78.3%
ROE	10%	—	—

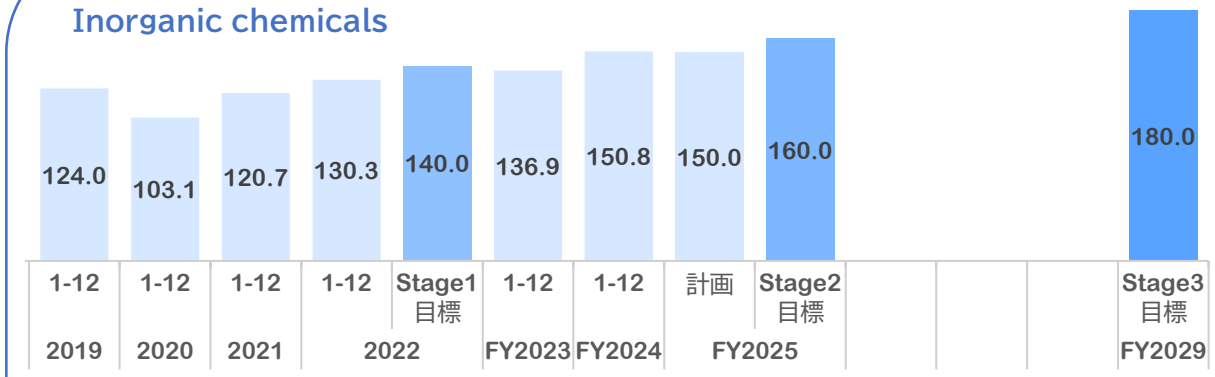


※グラフの表示は、2022年度以前の実績を当年度と同一期間（1月～12月）に調整しております。

各事業の進捗状況

Progress and Outlook for Each Segment

無機化成品
Inorganic chemicals

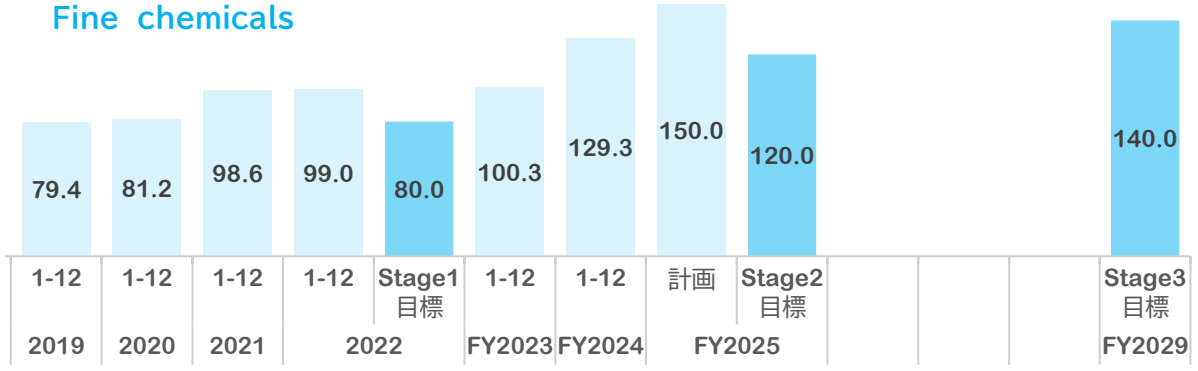


・不溶性硫黄新プラントは計画通り**2025年1月**完成（竣工）。数年間は償却負担が重いが、顧客承認が終了する**FY2026**から本格的な収益貢献が見込まれる。

・環境対応や硫黄を起点とした新規事業に向けて各プロジェクトが進行している。

ファインケミカル
Fine chemicals

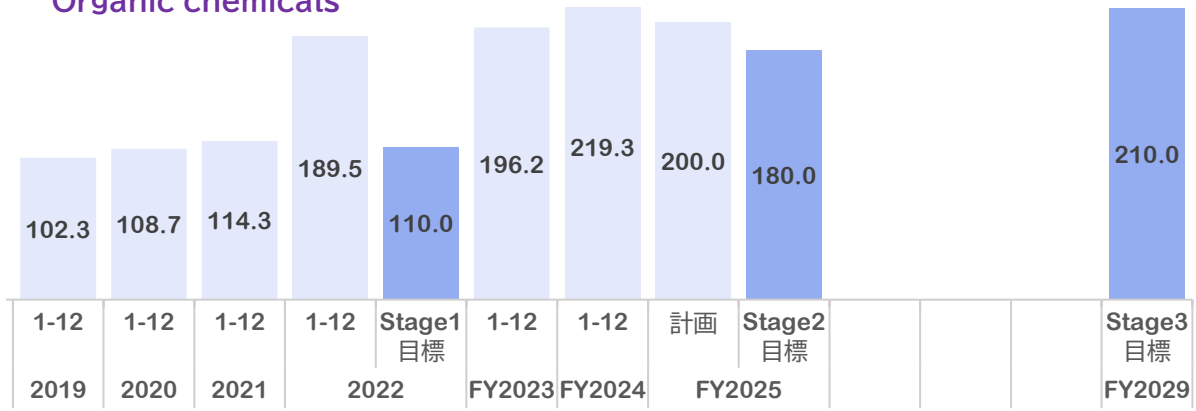
（億円）
100Million yen



・機能材料では、半導体プロセス材料の領域で、計画以上の拡販が続いている。技術面でも研究開発の体制強化が進む。四国地方発明表彰の文部科学大臣賞を受賞。

・電子化学材料は、銅回路と樹脂材料の密着性を向上させる新プロセス「GliCAP」で、AIサーバーなどの新領域での採用獲得や、半導体パッケージ基板の量産ラインが実績化。

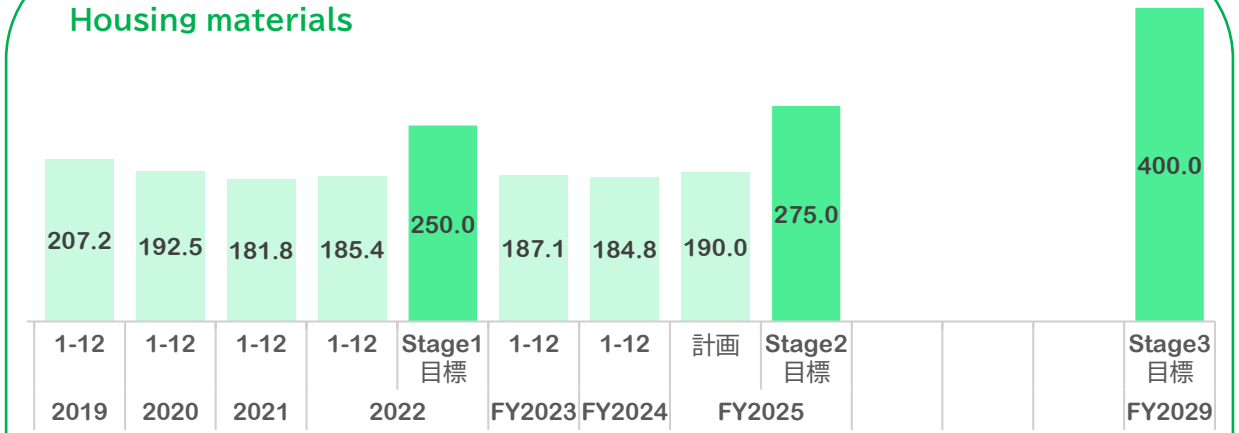
有機化成品
Organic chemicals



・北米プール市場での顧客基盤は強固であり、好調な販売を維持している。

・国内ではプール・風呂・排水処理・サニタリー等の幅広い分野で塩素化品を供給し、固形塩素剤供給メーカーとして高いシェアを持つ。

建材事業
Housing materials



・住宅向け需要の落ち込みにより厳しい業況が続く。

・得意分野である景観エクステリア分野に注力し、事業改革を進めている。

総点検結果

Results of Checking Current Situation

Challenge1000は折り返しの5年目が終了し、各事業の現状とありたい姿のギャップを確認する「総点検作業」を実施した。
財務目標とのギャップについても認識し、達成に向けて2025年3月より全事業でSTAGE 3策定をスタートする。

総点検

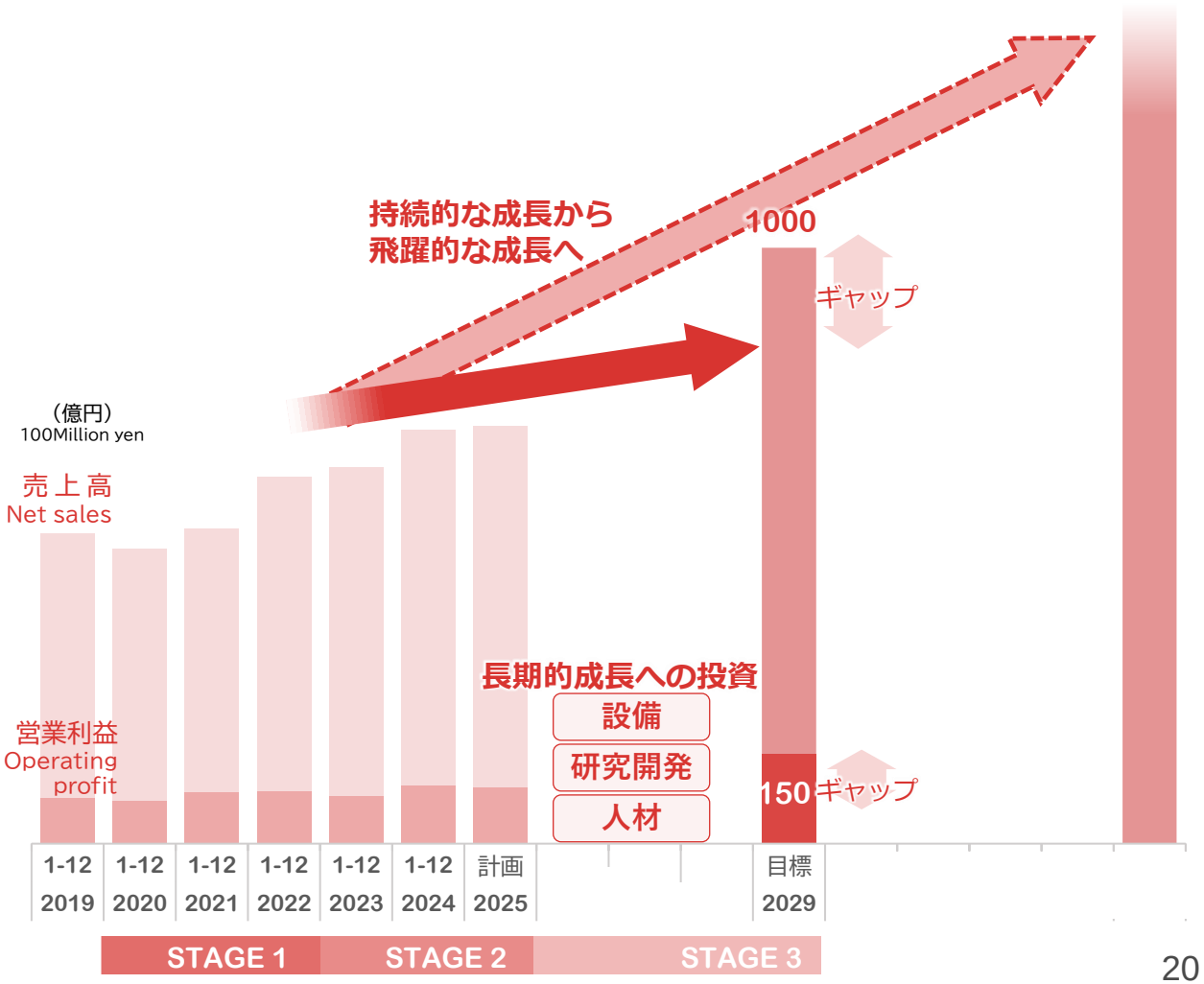
- 事業ごとにありたい姿や2029年の財務目標とのギャップについて検証。施策達成の確度を見える化し、2029年の売上高・利益見込を把握した。
- 投資についても、設備投資・研究開発投資・人材投資について検討(継続中)。

総点検結果

- 総点検の結果、売上高は施策実施により成長はしていくものの、現在の施策のみではChallenge1000達成には不足することを認識。
- 利益面では、今後数年間で見込まれる大型投資は2030年以降に本格的に収益貢献するものが多く、2028～2029年をピークに償却費負担が重い。
- また、並行して、四国化成グループの成長を支える「独自技術」と「誠実・細かな顧客対応」が当社の強みであることを再認識し、今後も成長の起点とする。

今後の方針

- STAGE 3は、飛躍に向けた「体制づくり」の時期とし、2029年の目標達成を目指すだけでなく、2030年以降の躍進に向けた施策を強化する方針。
- 売上高のギャップについては、各事業の持続的な成長をより強化するとともに、新規事業・M&Aの結実を目指す。新規事業・M&Aは当社の強みを活かした分野・領域を検討し、2030年以降の飛躍的成長につなげる。
- 利益面は、2030年以降の成長投資を優先する。特に、ファインケミカルは現在が飛躍の時と捉えており、積極的な投資を行っていく。
- 人材こそ競争力の源泉と考え、「人的資本」への積極投資、働く環境の整備に向けた投資を強化し、付加価値創出につなげる。



ご清聴ありがとうございました

5. 参考資料

Appendix

会社概要

Corporate Profile

2024年12月31日現在

商号	四国化成ホールディングス株式会社
証券コード	4099(東証プライム市場上場)　業種:化学
創立	1947年10月10日
本社所在地	香川県丸亀市
社長	渡邊　充範
資本金	68億67百万円
従業員数	1,276名(連結)
売上高	694億円(連結・2024年12月期)

事業概要

化学品事業（四国化成工業株式会社）

- 無機化成品

タイヤ原料等

- 有機化成品

プール・浄化槽の
殺菌消毒剤等

- ファインケミカル

電子部品用途薬剤
（プリント配線板向け薬剤、
樹脂改質剤等）

建材事業（四国化成建材株式会社）

- 壁材

壁材
（内装材、外装材等）

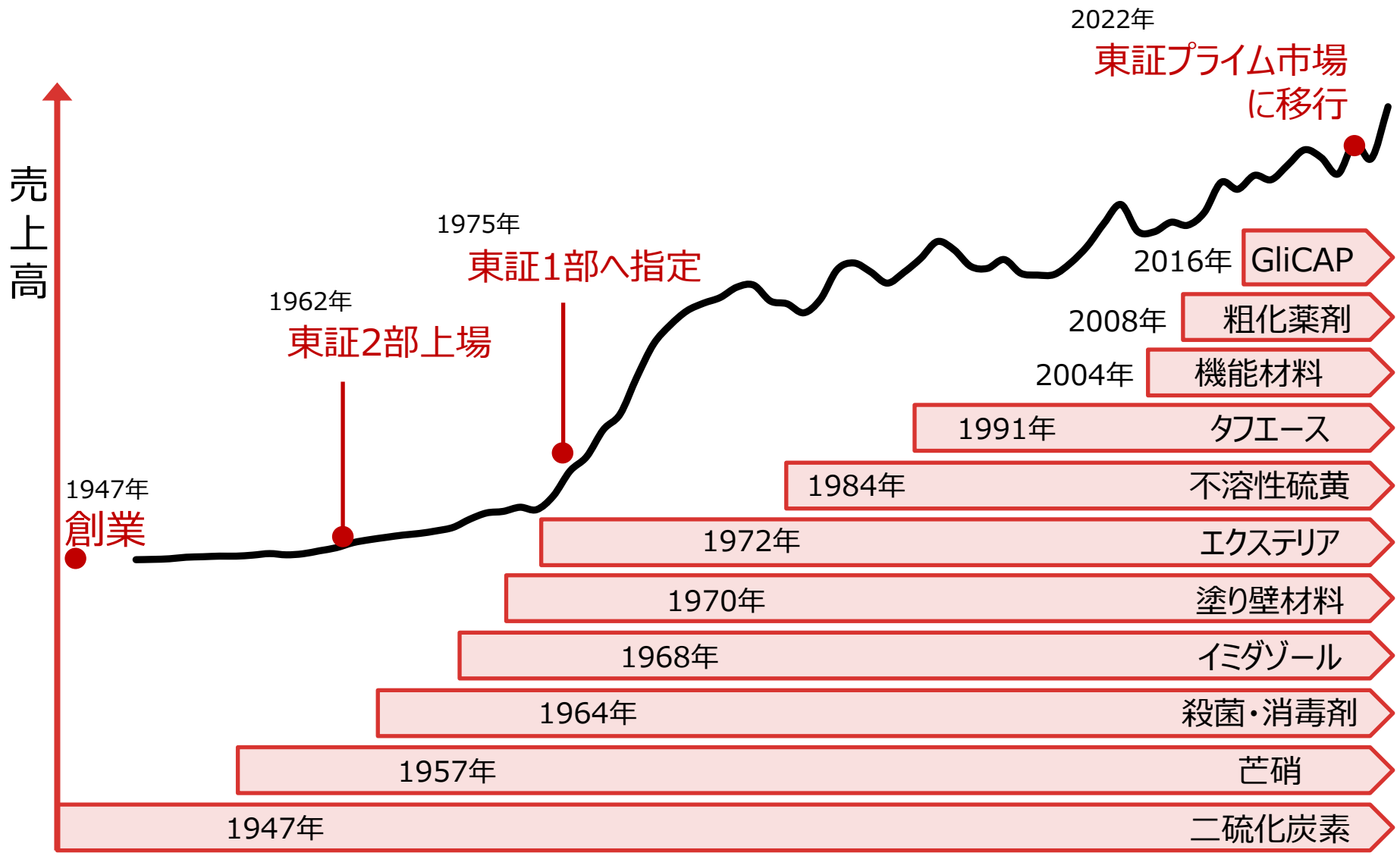
- エクステリア

エクステリア
（カーポート、門扉等）

沿革

1947年10月	香川県丸亀市において、二硫化炭素(⇒無機化成品)の製造を目的に資本金200万円をもって設立
1957年10月	徳島第一工場（現・徳島工場吉成事業所）建設、中性無水芒硝（⇒無機化成品）の操業を開始
1962年 6月	徳島第二工場（現・徳島工場北島事業所）建設
10月	東京証券取引所第２部に上場
1964年 5月	徳島第二工場において、塩素化イソシアヌル酸（⇒有機化成品）の初の国産化に踏み切り、操業を開始
1969年12月	プリント配線板などの電子部品用水溶性防錆剤（後のタフエース（⇒ファインケミカル））の販売を開始
1970年 9月	建材部門進出を図り、徳島第二工場において内装壁材（JULUX）の生産を開始
1972年 6月	アコーディオン門扉（⇒エクステリア）の製造・販売を開始
1975年 3月	東京・大阪両証券取引所第１部に指定
7月	香川県多度津町に多度津工場建設
11月	徳島第二工場において、イミダゾール（⇒ファインケミカル）の本格生産を開始　（'68年より試験生産）
1981年 6月	ロサンゼルスに駐在員事務所開設　（85年にＳＩＣとして現地法人化）
1984年 7月	丸亀工場において、不溶性硫黄（⇒無機化成品）の生産を開始
1992年 9月	香川県宇多津町に研究センター（現・Ｒ＆Ｄセンター)開設
1995年10月	埼玉県嵐山町に嵐山工場建設
2006年 7月	上海に現地法人 四国化成（上海）貿易有限公司 を設立
2008年	プリント配線板用粗化薬剤（⇒ファインケミカル）の販売を開始、丸亀工場にタフエース新プラント建設
2013年 8月	徳島工場に機能材料生産設備TAP-3(Tokushima Advanced Chemicals Plant-3)を建設
2014年 9月	国内唯一の二硫化炭素生産会社である日本硫炭工業（株）を連結子会社化
2015年 4月	台湾及びシンガポールに事務所開設
2017年 4月	日本工機（株）を子会社化
2021年 7月	徳島工場に機能材料生産設備TAP-4(Tokushima Advanced Chemicals Plant-４)を建設
2022年 4月	東証の市場区分再編に伴い、プライム市場に移行
4月	徳島工場に塩素化イソシアヌル酸の新生産設備（NEO2022)を建設
2023年 1月	持株会社に移行し、社名を四国化成ホールディングスに変更、化学品と建材事業、間接部門を分社化

沿革と売上高推移


売上高
1947年
創業
1962年
東証2部上場
1975年
東証1部へ指定
2022年
東証プライム市場に移行
2016年 GliCAP
2008年 粗化薬剤
2004年 機能材料
1991年 タフエース
1984年 不溶性硫黄
1972年 エクステリア
1970年 塗り壁材料
1968年 イミダゾール
1964年 殺菌・消毒剤
1957年 芒硝
1947年 二硫化炭素

化学品事業

Chemicals Operations

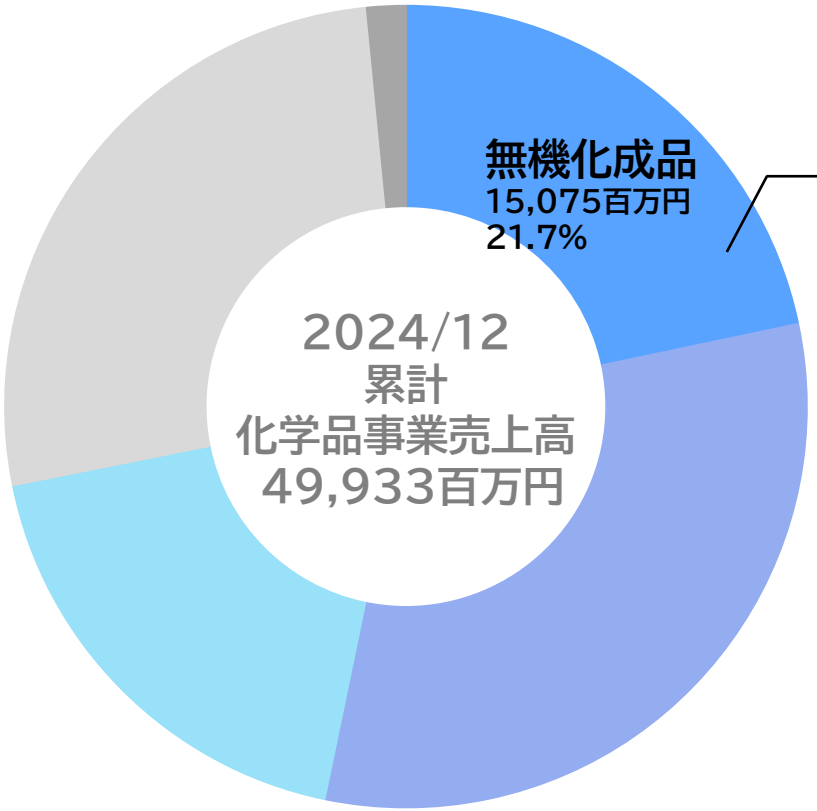
化学品事業

1. 無機化成品

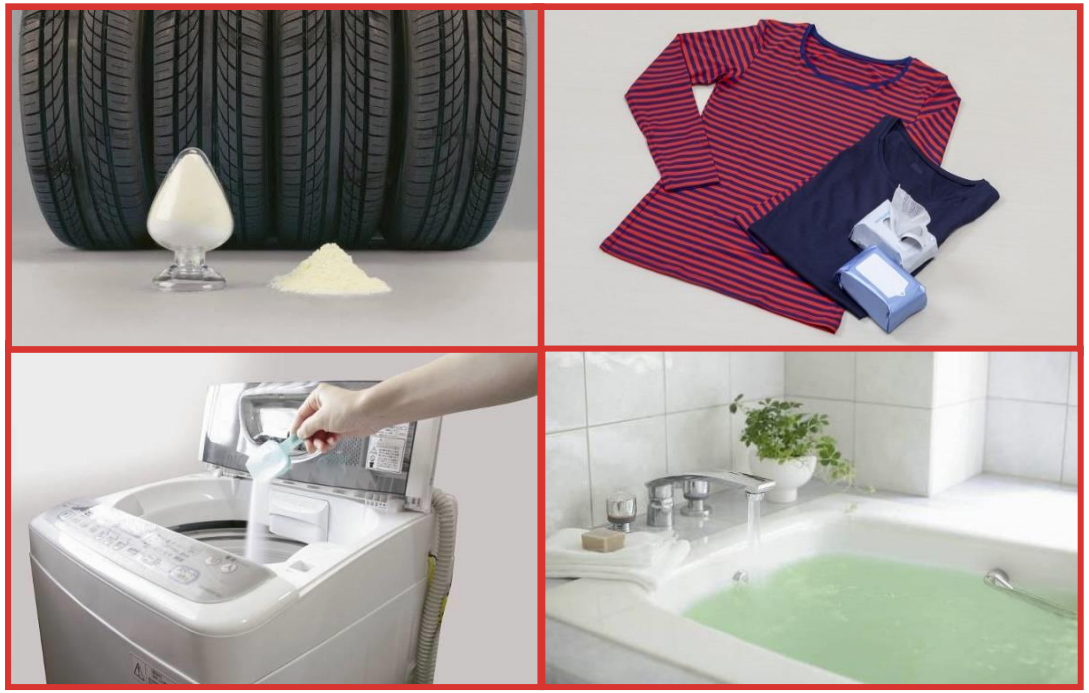
Chemicals Operations

Inorganic Chemicals

無機化成品



【主要製品】
- □ 二硫化炭素 … 化学繊維レーヨンの必須材料
- □ 不溶性硫黄 … ゴム加硫剤
- □ 無水芒硝 … 入浴剤の温浴効果促進剤
  合成洗剤の洗浄助剤

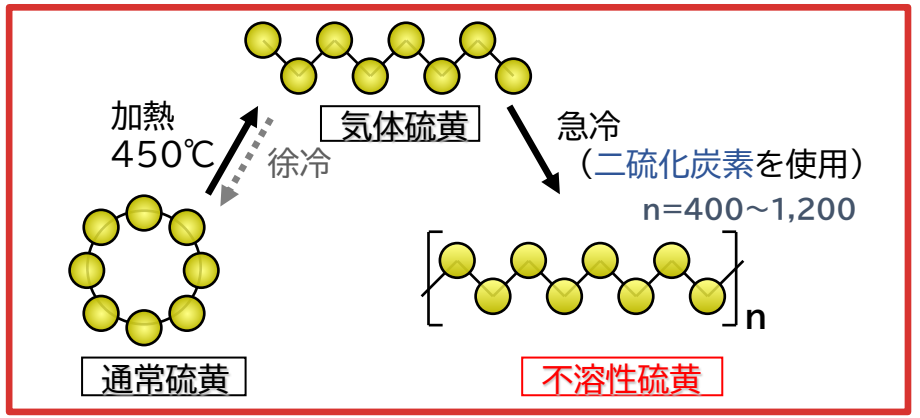


不溶性硫黄 －製品紹介－

- 用途：ゴム加硫剤
- 主要顧客:国内外のタイヤメーカー
- 原料のゴムは硬い状態であり、硫黄を加えて加熱(加硫)することで、伸びて縮む特性を持つようになる。
- ラジアルタイヤの生産工程で通常硫黄を使用した場合、ゴムの表面に硫黄がブルーミング(析出)し、ゴムの接着不良の原因となる。
  不溶性硫黄は、原料ゴムに分散状態でいるため、ブルーミングを抑制できる。
- 不溶性硫黄の生産には、創業製品である「二硫化炭素」の高い取り扱い技術が必要である。
- 不溶性硫黄は、タイヤメーカーから高い品質が求められている。
- 2024年、新プラントの増設により生産能力を約1.2倍に増強予定である。

■ 不溶性硫黄

■ 不溶性硫黄の製造工程（模式図）



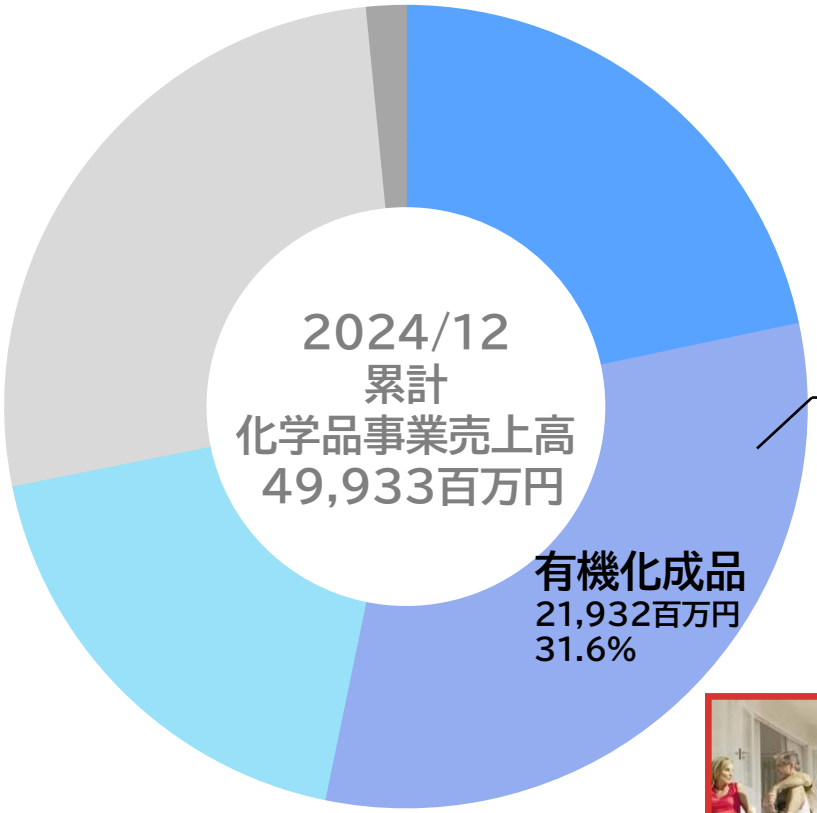
化学品事業

2. 有機化成品

Chemicals Operations

Organic Chemicals

有機化成品



【主要製品】

□ 塩素化イソシアヌル酸…プール・浄化槽の殺菌消毒剤(ネオクロール)
サニタリー製品

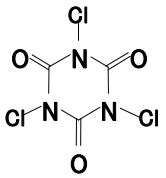
□ ハイポルカ …排水・汚泥処理剤

塩素化イソシアヌル酸 – 製品紹介 –

- プール用殺菌消毒剤「ネオクロール」は、他のプール用殺菌剤に比べ紫外線による分解が少なく、屋外プールでも長持ちする点や、長期間保存しても品質低下がほとんどない点が特長。
- 用途　　：プール・浄化槽の殺菌消毒剤、業務用風呂・家庭用の塩素系衛生処理剤
- 主要顧客：プール業者、学校、一般消費者（米国）
- プールや業務用風呂の自動塩素管理システム「ナピックス」で強みを持つ。

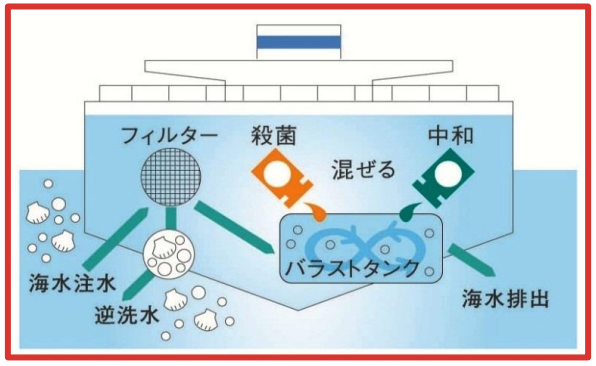
- 塩素が持つ強力な酸化・漂白・洗浄力を活かして、業務用・家庭用のサニタリー分野や、バラスト水（船底に積む重石として用いられる海水）処理、飲料水用途、各種施設での衛生管理用途などの様々な分野に展開中。
- 2022年10月、自社ブランド製品「WASHMANIA（ウォッシュマニア）」洗濯槽クリーナーを販売し、BtoC市場へ事業領域を拡大。

■ ネオクロール 製品群



塩素化イソシアヌル酸

■ バラスト水殺菌のイメージ



「ネオクロールマリーン」荷姿

■ WASHMANIA

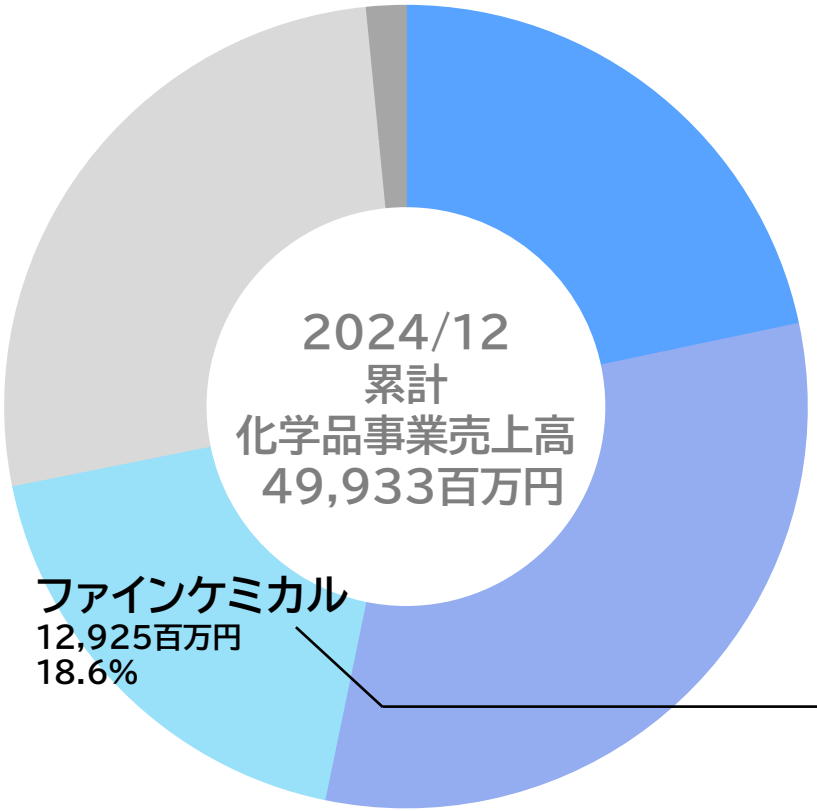
化学品事業

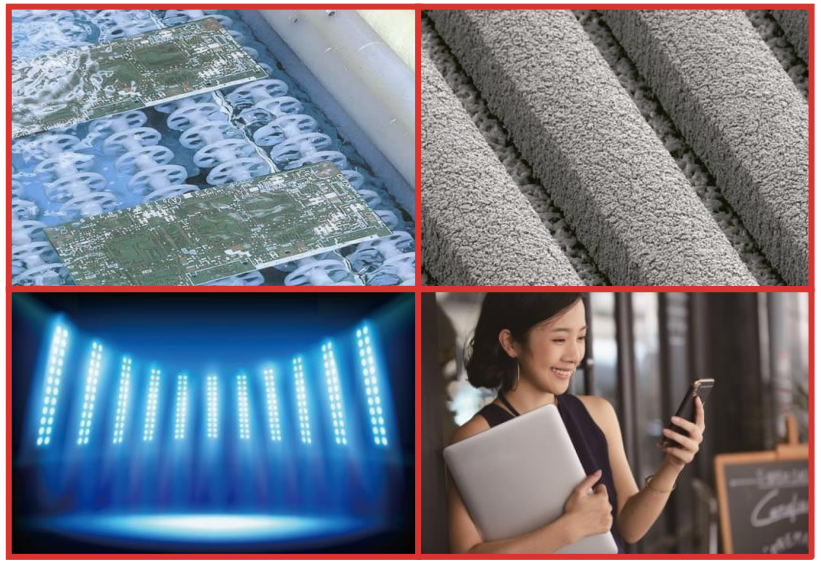
3. ファインケミカル

Chemicals Operations

Fine Chemicals

ファインケミカル





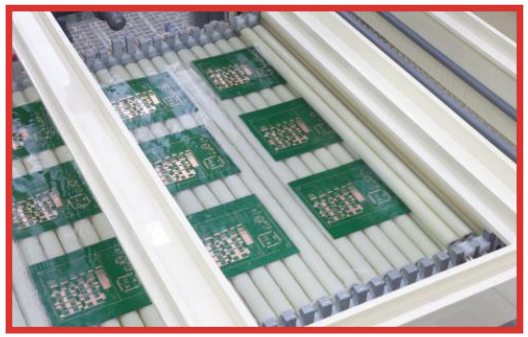
【主要製品】

- 電子化学材料…プリント配線板関連薬剤
  - ①水溶性防錆剤タフエース
  - ②密着性向上プロセスGliCAP
- 機能材料…有機合成力を生かした中間材料の開発・受託製造
  - ①樹脂硬化剤(イミダゾール類)
  - ②樹脂改質剤(グリコールウリル誘導体他)
  - ③半導体プロセス材料
- セイク　…耐熱電線ワニスの原料
- インク類　…ソルダーレジスト

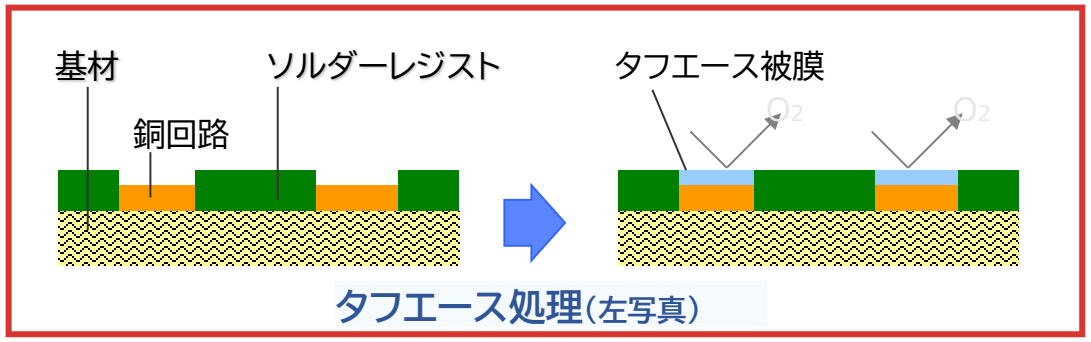
タフエース – 製品紹介 –

- 用途　　：プリント配線板向け水溶性防錆剤
  〔OSP:Organic Solderability Preservative〕
- 主要顧客：世界のプリント配線板メーカー
- プリント配線板の銅回路上に有機皮膜を形成し、露出した銅回路が酸化するのを防ぐことで、
  実装工程で良好なはんだ付け性を確保し、信頼性の高い電子部品製造に貢献する。
- OSPの主成分は、銅へ選択的に化学反応する特性を持つイミダゾール。
  当社はイミダゾールメーカーでもあり、OSPの要求特性にあわせて主成分を合成できる点が強み。
- プリント配線板の防錆剤は、OSPの他にも金属めっき等があるが、OSP比率は過半を占め、なお上昇中。
- タフエースは主要電機メーカーの材料指定を多数取得し業界標準に。
  他社に先んじて環境性能を高め、自動車用電装部品 や 半導体パッケージ基板でも採用実績が拡大中。

■ タフエース処理槽を通るプリント配線板



■ タフエース処理（模式図）



■ GliCAP® (グリキャップ)

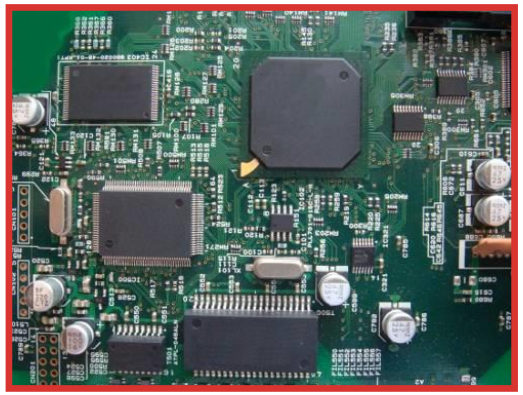
- プリント配線板の銅回路と樹脂の密着性向上剤。
- 従来は、銅を粗化(エッチング)することで表面に凹凸をつくり、“機械的結合”(アンカー効果)で樹脂との密着性を向上させてきた。
- 半導体の高性能化につれて、高性能な半導体を実装するパッケージ基板では、銅回路幅が超微細化し、 銅の粗化が困難になりつつある。
- 第5世代移動通信システム(5G)の実用化に向けて、更なる高速化が求められる高周波用サーバー基板では、高周波領域で銅表面の凹凸形状により伝送損失が生じるため、平滑な表面の銅回路が求められている。
- GliCAP® は、「樹脂と強く結合する性質」と「銅と強く結合する性質」の両特性をあわせ持ち、銅表面を粗化することなく、“化学的”に密着力を向上できる。
- 高周波用サーバー基板では既に採用され、パッケージ基板でも採用や量産化に向けた評価が進んでいる。また、将来的にはプリント配線板以外の市場への応用も視野に入れている。

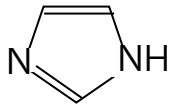
機能材料(イミダゾール類) – 製品紹介 –

- 用途:エポキシ樹脂※の硬化剤・硬化促進剤
- 主要顧客:樹脂材料メーカー、電子部品メーカー
- イミダゾールはエポキシ樹脂・ウレタン樹脂などの硬化剤、医農薬原料、防錆剤など各種工業薬剤の原料などに幅広く使用される。
- 当社売上高の大半はエポキシ樹脂硬化剤用途。
  イミダゾールを配合したエポキシ樹脂は、電気・電子部品用途に最適な特性を持つ。
- 多品種のイミダゾールを揃え、ユーザーの求める多様な硬化速度・性能に対応。
- これまで競合品(非イミダゾール系)が強かった分野・用途でも、製品の性能向上のため顧客がイミダゾールを新たに採用する動きがある。

※ エポキシ樹脂:分子の末端に反応しやすいエポキシ基をもつ樹脂状の化合物、およびその化合物と硬化剤と重合させて生じる熱硬化性の合成樹脂。接着剤のほか、プリント配線板、塗料などに用いられる。

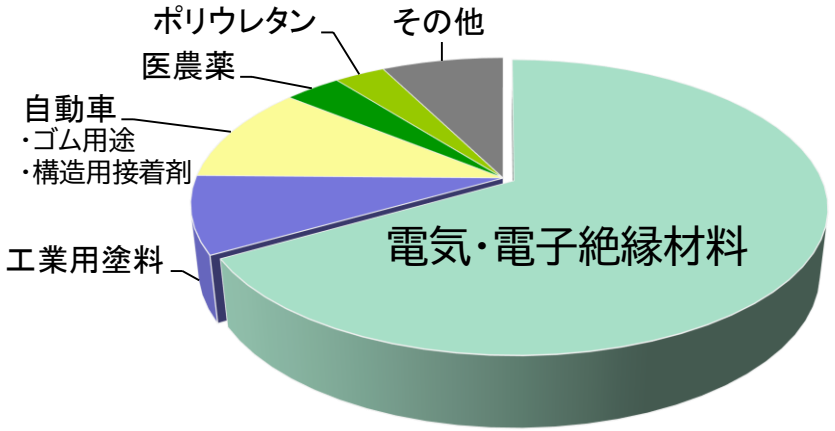
■ エポキシ樹脂が使われる電子部品(例)





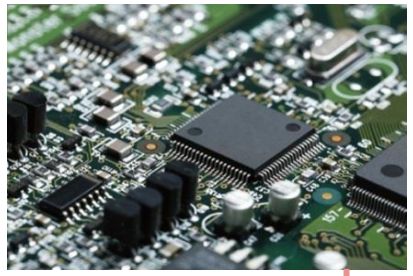
イミダゾール

■ 当社イミダゾール類の用途

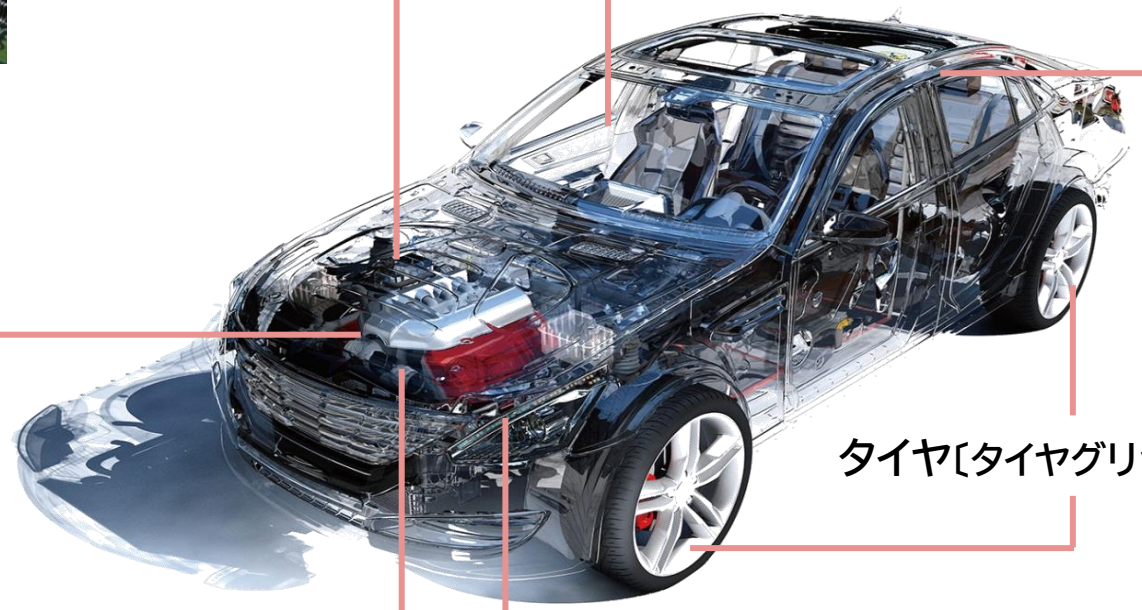


機能材料(イミダゾール類) – 製品紹介 –

エンジンのECU
〔積層板、封止材、ソルダーレジストインク〕



ボンネット
〔CFRP(強化炭素繊維)〕



カーナビ〔液晶シール材〕

骨組み部
〔構造用接着剤〕

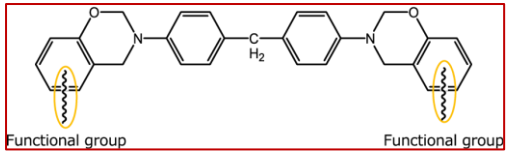
タイヤ〔タイヤグリップ向上薬剤〕

電装モーター
〔絶縁粉体塗料〕

エアーホース
〔アクリルゴム薬剤〕

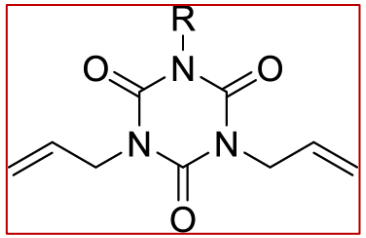
■ ベンゾオキサジン

- 耐熱性・難燃性・電気特性に優れた樹脂。
- 炭素繊維強化プラスチック（CFRP）や半導体の封止材向けで検討が進んでいる。



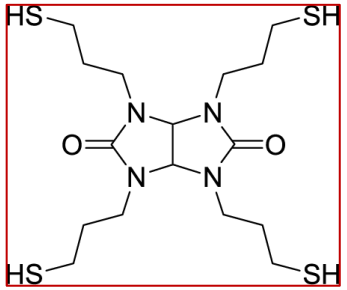
■ イソシアヌル酸誘導体

- 当社が蓄積してきたイソシアヌル酸合成技術を活用して開発した。
- 耐熱性・耐光性・透明性に優れ、様々な官能基を導入可能。
- 封止材料などの改質剤に使用されている。



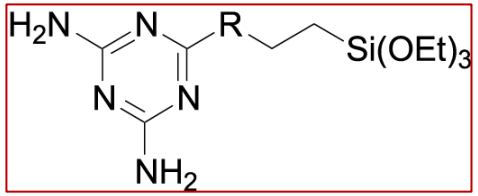
■ グリコールウリル誘導体

- 多官能・透明・高耐熱性の樹脂改質剤。4つの官能基を持ち、高架橋密度の硬化物が期待できる。
- 官能基にチオール基（-SH）を有する製品は、
  低温で速やかにエポキシ樹脂を硬化し、従来の改質剤と比べ、
  硬化した樹脂は耐湿性など様々な特性に優れる。
- 高性能化や小型化が進む電子材料分野で、採用されている。



■ 新規密着性付与剤（VD）

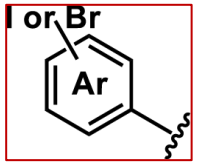
- 樹脂に添加することにより、金属などの無機材料との
  密着性を改善することができる樹脂改質剤。
- 従来品の課題であった金属腐食性を改善できる。



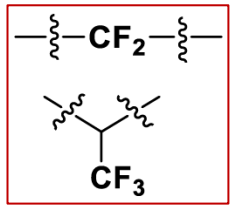
■ 有機合成技術

- 半導体プロセス材料は、半導体の超微細回路化に伴い、使用される材料の合成難易度が高まっているが、当社が保有する有機合成技術を背景に新規案件（受託・オリジナル材料開発）を獲得している。

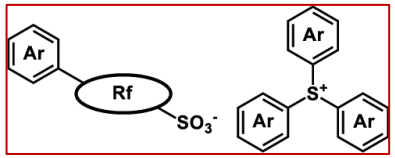
ヨウ素・臭素化



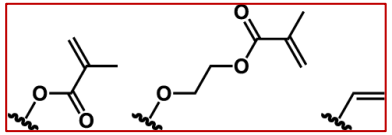
フッ素化



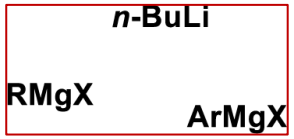
イオン交換反応



重合性置換基導入



有機金属反応

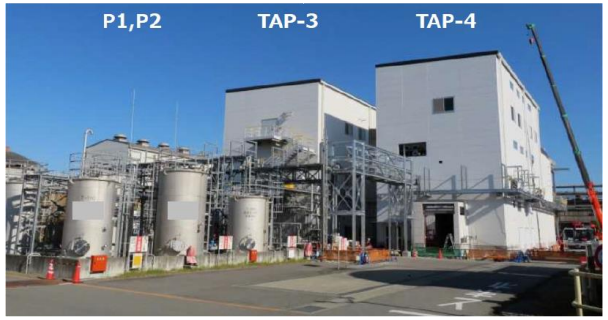


カップリング反応

■ 製造技術

- 最先端材料の需要拡大を見込み新設された、新プラント「TAP-4」が2021年7月より稼働を開始した。
- 「TAP-4」は、低金属管理など高い品質管理に対応した設備。これまで培った製造技術と合わせて、複雑高度な合成プロセスにも対応

■ イエロールームを完備した製造プラント（徳島工場）



建材事業

Housing Materials Operations

建材事業

4. 壁材

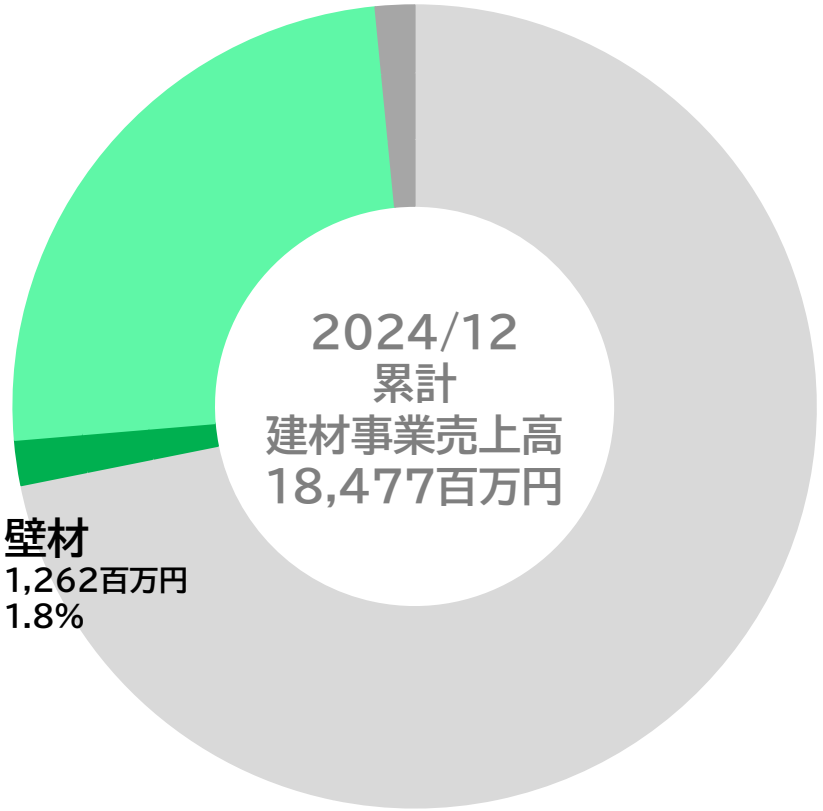
Housing Materials Operations

Interior, Exterior Finishes and Paving Materials

壁材

【主要製品】

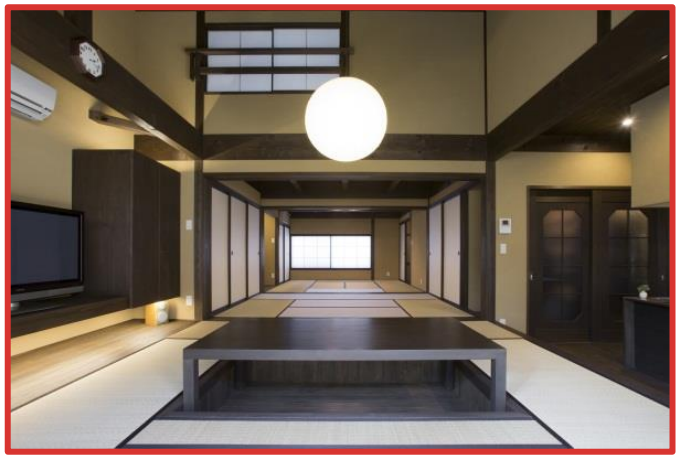
- 内装材(けいそう壁・自然素材壁)
  調湿機能、有害な化学物質や生活臭の
  吸着・分解機能をもつ塗り壁材
- 外装材
  住宅向け湿式外装材
- 舗装材
  天然石舗装材、リサイクルガラス舗装材
  ゴムチップ舗装材



壁材

- 内装材
  - 自社製化学糊料CMCの用途展開として開発した、塗り壁材における日本初の工業製品「JULUX(ジュラックス)」が発祥。
  - 日本の伝統的な壁である聚楽壁は取り扱いが難しいが、当社の壁材は所定量の水を混ぜるだけで均一な品質を保つことができる。また、塗り壁はシックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドなどの化学物質やニオイを吸着する性能が高いため、改めて注目されている。
  - 商業・公共空間設計やこだわりある注文住宅をターゲット市場とする高意匠性を特長とした商品展開を行っている。厚塗りを活かした立体感と多様な模様付けにより、空間に彩りと表情がもたらされる。

■ けいそうジュラックス土壁（内装材）



■ クレアデコール（内装材）

壁材

- 外装材・舗装材
  - 建物やエクステリアの外側を覆う「外装」、道路やアプローチの表面を覆い固める「舗装」にも展開。
  - 外装材はカラーを含め豊富なバリエーションがあり、表面のテクスチャーまで手作業で仕上げるため、微妙な表情が可能。舗装材では、天然石、天然砂、ゴムチップ等の素材を揃える。
  - 外装材・舗装材ではエクステリアの商流を活かし、相乗効果を生み出している。

■ 弾性パレットクリームHG （外装材）

■ リンクストーン S （舗装材）

建材事業

5. エクステリア

Housing Materials Operations

Exterior Products

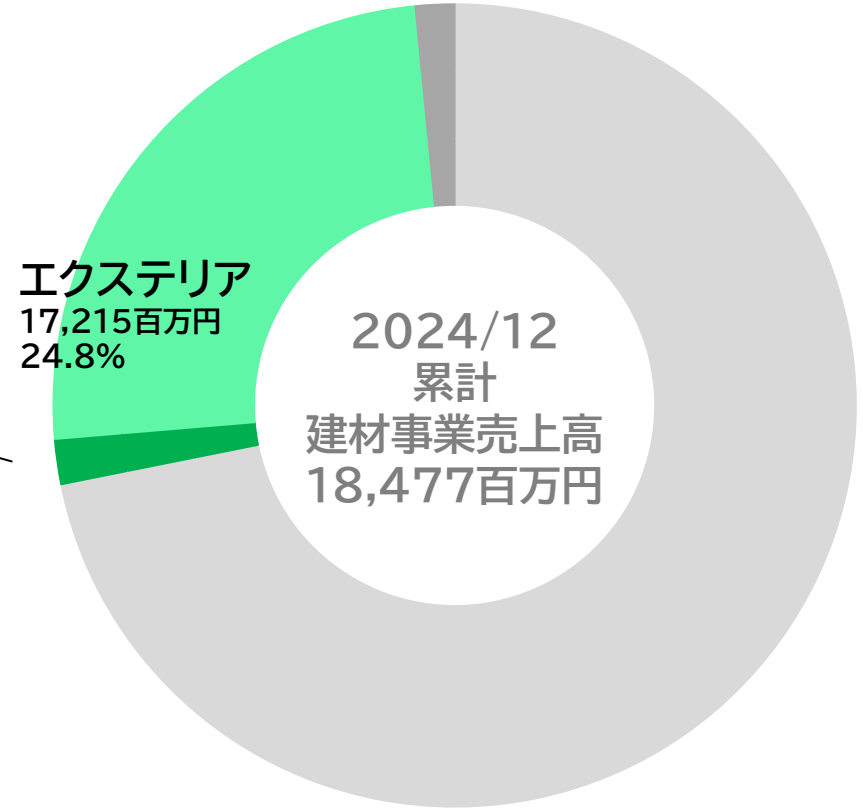
エクステリア

【主要製品】

住宅エクステリア
- 門扉・フェンス・カーポート・デッキ
- アコーディオン門扉（伸縮門扉）
- アートウォール（アルミ システム塀）

] 業界初 当社開発品

景観エクステリア
- 大型門扉・フェンス・通路用シェルター・駐輪場
- ゴミ集積庫（業界初 当社開発品）
- 屋上緑化等



住宅エクステリア

- 急速にモータリゼーションが進んでいた1972年、伸縮機構で簡単に開閉でき、日本の狭小な宅地事情にも応えた「アコーディオン門扉」を考案、車庫前門扉のスタンダードとなった。
- その後、一般門扉、車庫（カーポート）、フェンス、また、デッキ材やテラスなどに商品ラインナップを強化していった。
- 機能を重視しつつデザインにも注力しており、1984年にはエクステリア業界初の「Gマーク」（現在のグッドデザイン賞）を獲得した。
- フラットな木調の天井材を用いたシンプルで建物と一体感のあるデザインのテラス『ファンルーフ』が2019年度グッドデザイン賞を受賞した。

■ ファンルーフ（テラス）

■ マイポート 7 （カーポート）

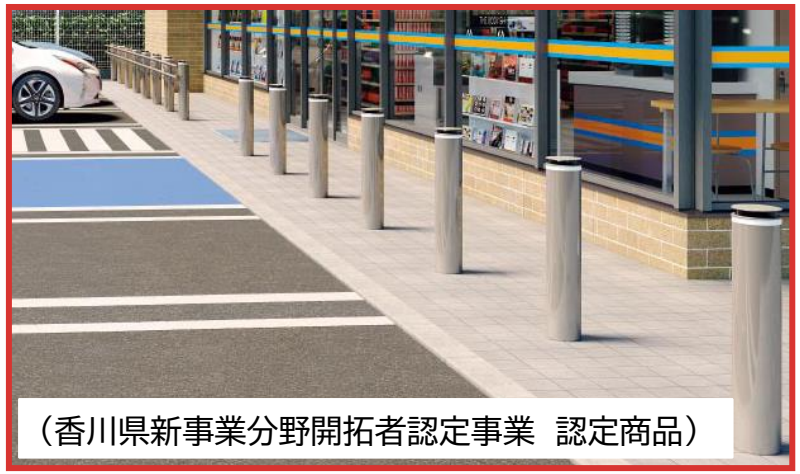
■ クレディアコー （アコーディオン門扉）

景観エクステリア

■ ライズルーフⅡ Lタイプ　（通路用シェルター）

■ マイルーフ7(セブン)　駐輪場タイプ

■ GTパイル （高強度車止め）



（香川県新事業分野開拓者認定事業　認定商品）

■ ゴミストッカー PS型　（ゴミ集積庫）

建材事業の取り組み

- 昨今、台風など大規模な災害が全国で相次いでいることを踏まえ、当社は風雪に強い高強度のエクステリア製品のラインアップを充実し、拡販を進めている。
- 景観分野で培った強度基準・品質を全ての商品へ展開し、建築基準法に準拠した高い品質・強度の製品開発に取り組んでいる。
- 高強度商品のラインナップとして、大型フェンス、アーチウェイ、大型引戸、カーポートに加え、戸建住宅用フェンス、独立テラスの商品化を行っている。

■ 高強度大型フェンス GTFシリーズ

■ メリールーフ　積雪地用

■ マイポートOrigin 積雪地タイプ

■ 高強度大型引戸　スタックラインGT

■ 独立テラス　スマートトップ　高強度用

長期ビジョン Challenge 1000

Long-term Vision Challenge 1000

化学品事業　世界の進歩のために、進化と深化を続ける事業

	ありたい姿	戦略シナリオ
無機	取り扱いが難しい素材を循環的に活用し、 世界の技術革新、環境保全に貢献する事業	硫黄取り扱い技術、合成反応評価技術を蓄積。 硫黄活用を起点として新たな価値を創出し、 事業領域を拡大する。
有機	環境・衛生を守り、世界中の人に キレイを届ける事業	水環境・衛生などの社会課題に応じて顧客ニーズを先取りし、 独自技術やサービスで殺菌・洗浄の最適な提案を実現する。
ファイン	独自技術による高機能な製品を提供し、 技術の発展に貢献する 新技術で世界のスタンダードを創出	ニーズを先取りして独自性があるテーマを確立し、 有望顧客とともに技術を確立する。 蓄積した独自技術をもとに高機能な製品を開発。 市場動向を見据えたテーマを設定し、 強みを活かした製品開発を行う。 顧客目線のトータルソリューションを提案していく。

建材事業　未来のくらしをデザインし、笑顔でくらせる世界の街づくりに貢献

建材

ありたい姿

未来のくらしをデザインし、

笑顔でくらせる世界の街づくりに貢献

価値提供プロセス

デザイン性と機能性を追求した独創的な製品で
国内外の多様な人財やエンジニアをひきつけ、
獲得する

独自の製品カテゴリーで提携推進、世界に展開

全社変革方針

■2030年にありたい姿の実現に向け6つの全社変革方針を設定し、全グループを挙げて推進していく。

2030年にありたい姿

独創力で、“一歩先行く提案”型企業へ

独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界をリードする

全社変革方針

❶価値づくり

ブランド価値の向上と新しい事業への挑戦

- 四国化成品質の向上
- 新規事業やそのアイデアを誰もが提案し挑戦できる仕組みを確立

❷余力づくり

変革リソース確保に向けた効率化実現

- 無駄の排除と業務の簡素化・標準化
- IT等の技術活用による効率化
- 人員の最適配置と働き方の見直し

❸拠点づくり

世界への足場づくりと世界展開の加速

- 全社拠点戦略の策定
- 国内での生産・開発・販売拠点の最適化
- 海外での生産・開発・販売拠点の最適化

❹組織づくり

ビジョン実現に向けたグループガバナンス体制の確立

- 最適なグループガバナンス体制の構築
- 海外展開に対応したグループガバナンス体制の確立

❺風土づくり

多様性を認め、挑戦を後押しする風土の醸成

- “提案型スタイル”の従業員への浸透
- “提案型”を育てる風土の醸成
- 多様な働き方に対応した就労環境の整備

❻人財づくり

個人の挑戦を促し、公正に評価する仕組みの構築

- 求める人財を惹きつける採用の仕組み確立
- 一人ひとりを尊重した成長の場づくり
- 評価体系改定と運用強化

進捗状況（全社変革方針）

■ 多様な働き方に対応する基盤づくり、自ら変革していくという意識の醸成や仕組みづくりに取り組んでおり、概ね計画通りに進んでいる

項目	トピックス
価値づくり	**◆ブランド価値の向上**（四国化成品質を策定） **◆環境に対する取り組みの強化**（統合報告書の作成） **◆新規事業創出に向けた取り組みの実施**（社内公募の実施）
余力づくり	**◆テレワークの推進等、業務の効率化への取り組みを実施** ・働く場所にとらわれず、効率的な働き方ができるテレワークを推進 ・インフラ整備の充実
拠点づくり	**◆生産拠点の最適化** ・壁材生産拠点を徳島工場吉成事業所に移転
組織づくり	**◆目指すべき組織体制決定に向けた準備の実施** ・持株会社体制への移行
風土づくり	**◆長期ビジョンの浸透、部門間の壁をなくす交流活動を実施** ・ワークショップ、座談会等イベントの開催
人財づくり	**◆社員が積極的に挑戦できるような環境を整備** ・加点方式の挑戦目標を導入など、評価制度の見直し

四方よし – ステークホルダーへの貢献 –

顧 客
一歩先の価値を
独創的で最先端の
製品・サービスで、
新たな価値をご提供いたします

従業員
挑戦と成長を
多様な働き方と挑戦による
成長を実感できる環境をつくり、
豊かな人生を応援します

四国化成

社 会
より良い明日を
社会課題の解決に貢献し、
豊かな生活環境を
実現いたします

株 主
還元方針
連結業績を基準として、
配当性向30%、総還元性向50%、
株主資本配当率3%を目指します

免責事項

Disclaimer

◆本資料は、株主・投資家などの皆さまに当社の経営方針、計画、財務状況などの情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。

◆本資料に掲載されている情報は細心の注意を払って掲載しておりますが、掲載された情報の内容が正確であるか、更新時期が適切かどうかなどについて一切保証するものではありません。また、掲載された情報またはその誤りなど、本資料に関連して生じた損害または障害などに関しては、その理由の如何に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

◆本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績などに関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいており、リスクや不確定な要因を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因により、これら業績などに関する見通しとは大きく異なることがあり得ます。

◆以上のことをご理解いただき、投資に関する決定をされる場合には、当社が発行する有価証券報告書などの資料をご覧いただくなどして、ご自身の判断で行われるようお願い致します。

お問い合わせ先
四国化成ホールディングス株式会社　経営企画室
TEL:0877-21-4119
https://www.shikoku.co.jp